



平成27年度採択 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

**オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業  
平成28年度 事業成果報告書**

**ALL AOMORI COC+**



# 地(知)の拠点



平成27年度採択 文部科学省  
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

**オール青森で取り組む  
「地域創生人財」育成・定着事業**

**平成28年度 事業成果報告書**

**青森COC+推進機構**



# 地(知)の拠点



# 目次

青森COC+推進機構長 挨拶 .....	1
1. 事業概要 .....	3
2. 実施体制 .....	9
3. 実施内容 .....	13
【1】 会議・総会等 .....	13
【2】 教育プログラム開発 .....	20
【3】 共育型インターンシップ .....	27
【4】 学生の地元就職支援（ブロック事業） .....	35
【5】 学生の起業支援（ブロック事業） .....	42
【6】 雇用創出連携プロジェクト .....	45
【7】 FD・SDの実施 .....	55
4. シンポジウム .....	57
5. 外部評価 .....	67
6. 参考資料 .....	73



地(知)の拠点

## 青森COC+推進機構長 挨拶

---

弘前大学は平成27年度に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されました。本学が中心となり、青森県内の大学・高専、青森県や県内の自治体、100を超える県内企業・団体・NPOとともに「オール青森」体制を形成し、青森県の将来を担う人財の育成と県内就職率の向上、人口減少克服に取り組んでおります。

事業初年度は、本事業に係る連携・協力に関する協定をCOC+参加校及び参加自治体と締結し、新たに「青森COC+推進機構」を設立するなど、事業の基盤整備を進めてまいりました。

事業2年目となる平成28年度からは、その強力な基盤のもとに「共育型インターンシップ」、「学生による県内企業調査」、「雇用創出連携プロジェクト」など、学生の県内定着に向けた取組が本格的に始動いたしました。これまで各大学・高専が独自で行っていたものが、本事業をきっかけに全県的な取組へと発展したことで、より効果が発揮されることを期待しております。また、本事業により、地域活性化への貢献が一層加速されるよう各連携機関が一丸となって取り組んでまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



青森COC+推進機構長  
弘前大学長

佐藤 敬



# 地(知)の拠点

# 1. 事業概要

---

Outline



## 【1】 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」とは

我が国が世界に先駆けて迎えている人口減少・超高齢化社会において、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」ことが危惧されている。

このような人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するためには、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる魅力ある就業先や雇用の創出等に国と地方が一体となって取り組んでいかなければならない。

地方を創生する中心となるのは「ひと」であることは言うまでもなく、地方の未来を担う「ひと」を養成する主役は、我が国における知識基盤社会の推進を担ってきた大学や短期大学、高等専門学校であり、これらの高等教育機関が、地域の人材需要を的確に把握し、その地域の課題解決の中心的役割を担う人材を育成することは地域の知の拠点である大学の使命である。

また、地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等の観点から、地方大学が果たすべき役割には、極めて大きな期待が寄せられている。

文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、平成25年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としている。

## 【2】 オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

### 1. 事業概要

弘前大学は平成27年度の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の公募にあたり、県内大学・高専、地方公共団体、企業等との連携による「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」を申請し、採択された。

本事業は、若年者・女性の人口減少克服のため、志・創造力・実行力を柱に「地域で生活し、地域で働き、地域創生に取り組む人財」の育成を進め、学生の地域就職率の向上、雇用創出を実現する。

COC採択校である弘前大学、八戸工業高等専門学校を中核に9大学1高専(県内大学の8割)、青森県・県内主要4市、県内企業・NPO等(計107社)による「オール青森」ネットワークを形成し、大学と地元企業との連携による共育型インターンシップの開発・実施、女子学生のキャリア支援・地元定着、学生の起業支援などに取り組む。

青森県を4つの地域ブロックに分け、担当のコーディネーターを配置し、COC+推進コーディネーターのマネジメントのもと、迅速かつ効果的な事業実施の体制をとる。

また、青森県地方創生戦略にあるアグリ・ライフ・グリーン・ツーリズムの4分野に対応した「雇用創出連携プロジェクト」に各大学等や企業が強みを生かして参画し、新産業・ビジネスを創出する研究を進める。

本事業において地域就職率を平成26年度より10%向上させ、平成31年度にはCOC+大学・参加校全体で48.1%の地域就職率(弘前大学は39.7%)を達成する。

## 2. 事業協働機関と組織

本事業は、弘前大学をCOC+大学とし、青森県にある8大学1高専(八戸高専はCOC採択校)がCOC+参加校となる。青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市の5自治体と、優れた技術や強みをもつ107の企業・NPOが事業に参加し、オール青森体制で青森県の活性化と人口減少克服に取り組む。

事業協働機関は、弘前大学長が機構長を務める「青森COC+推進機構」の構成員として協働して事業を推進する。

また、地域志向・定着プログラムの開発を担う「教育プログラム開発委員会」を設置するとともに、COC+推進コーディネーターを置き、事業協働機関の調整を図りながら事業を強力に推進する。

事業協働機関は、地域ごとに作られたブロック事業と、ブロックを横断して作られる雇用創出連携プロジェクトに参加する。ブロック事業では、「教育プログラム開発委員会」が開発するプログラムを、各大学の授業に実装していくほか、学生を地域に定着させていくための事業を連携して行う。雇用創出連携プロジェクトでは、青森県の総合戦略を踏まえたアグリ・ライフ・グリーン(環境・エネルギー)・ツーリズムの4分野において強みを有する事業協働機関が連携し、新産業を創出する研究を推進する。

## 3. ブロック事業

青森県を、青森市・弘前市・八戸市・むつ市をそれぞれ中心とした4つのブロックに分け、大学・自治体・企業等はそれぞれブロックを核とした事業を展開する。ブロック相互は情報やノウハウを交換するとともに、連携・共同事業などオール青森となるスケール・メリットを生かした事業にも取り組む。

ブロックの役割は、同じ地域に属する参加校・自治体・地元企業・NPOが緊密に連携し、事業を確実に実施することである。

事業を円滑に実施するために、ブロックごとに、ブロックリーダーとなる大学と、ブロック・コーディネーター(BC)を置き、ブロック事業の進捗管理と、事業協働機関相互の連携調整を行う。

また、ブロック会議を開催し、情報の共有を図るとともに、事業内容のチェックを行い、改善策を講じることで、事業を着実に推進する。

具体的には、ブロック事業において、「教育プログラム開発委員会」が開発するプログラムや、各大学等が独自に実施する地域志向科目・起業実行プログラム等を実施する。学生たちが地域企業の魅力や働きがいを見出すため、学生自身の企画による企業合同説明会や会社ツーリズム(企業見学)などのイベント等を実施する。自治体・地域の企業・NPOは、共育型インターンシップの開発・実施に参加し、学生の受け皿となるほか、地域の中小企業で働く若者のネットワーク化を進め、地域企業就業者のキャリアアップを支援していく。

また、学生の創業・起業を支援し、特に工業中心の八戸地域では、参加校である八戸高専・大学を中心に、学生を対象としたイノベーション・ベンチャーコンテストを実施する。

## 4. 教育プログラム開発

本事業では、設定した人材像・能力を踏まえ、学生の意欲・主体性を引き出し、机上ではなく、実践の「場」で自分の専門知を鍛えるという視点から、学生の主体性と実践性・現場性を重視した取組を強化する。

主に学部3・4年生を対象とした、新たに多様な専門知を持つ学生たちが地域で取り組みたいと



思うプロジェクトを自ら提案し計画・実行する「学生提案型地域プロジェクト学修」科目の新設や、学生の事業協働地域就職率等の向上のために、主に地元の中小企業を対象に大学と企業が連携して企画・実施する「共育型インターンシップ・プログラム」、若年女性の県外流出に歯止めをかける「女子学生のためのキャリア支援プログラム」、学生の土着ベンチャー、スモール・ビジネスを支援する「起業実行プログラム」を開発する。COC+参加校とで開発・共有・活用する、これらのプログラムは自由度の高い実践プログラムとし、既存の正課科目と連動させ、教育と実践を往還するデュアル・システムを構築する。

また、事業協働機関との連携を生かし、地域人材の情報や斡旋機能を仕組化することで、学生にとって魅力ある地域志向科目の拡充を図る。

## 5. 雇用創出連携プロジェクト

雇用創出連携プロジェクトの役割は、同じ強みを有する大学等や企業をブロック横断的につなぎ、青森県の特性を生かした研究成果を活用することで、学生の受け皿となる雇用創出を生み出すことである。

これまでCOC+大学・参加校は、青森県の特性を生かしたアグリ・ライフ・グリーン・ツーリズム分野の研究を行ってきた。本プロジェクトにおいては、産学官金のネットワークを強化し、青森県の経済を牽引する新産業の創出を目指す。

事業を円滑に実施するため、それぞれのテーマに強みを持つ大学にプロジェクト・マネージャー(PM)を置き、関係する大学・企業との連携調整を行うとともに、事業の進捗を管理する。ラウンド・テーブル等を通して、新事業創出に向けた研究シーズの活用法などを闊達に議論し、新産業創出を実現する。

まず、アグリ分野においては高い付加価値をもつ農水産物の品種改良やブランド化、新生物資源の探査を進める。ライフ分野においては医工連携による新技術の開発や、看護・福祉関連サービスの創出に取り組む。グリーン分野においては効率的な自然エネルギーの開発に取り組む。ツーリズム分野においては地域資源を生かしたビジネスの創出に取り組む。

地域の企業は、新技術を活用した商品の開発・商品化・販売を目指すとともに、COC+大学・参加校からの学生を積極的に採用する。これを支援するため自治体は、4分野への県内企業の参入促進に取り組み、産業のクラスター形成を進める。さらに商品の高付加価値化と、販路拡大に取り組み、県内企業の海外展開を支援する。

## 6. 事業目標

項目	平成26年度	平成31年度(目標値)
事業協働地域就職率	38.1%	<b>48.1%</b>
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	190人	<b>500人</b>
事業協働機関からの寄付金額	178,160千円	<b>200,000千円</b>
事業協働機関雇用創出数	46人	<b>66人</b>

※平成26年度事業協働機関雇用創出数：事業協働機関において、平成26年度採用者数から平成25年度採用者数を減じた数値

# 事業名：オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

## 青森県の最大課題は「人口減少克服」(全国の縮図！)

- 人口減少数64,000人(H17→H22) 【全国 2位】
- 若年者人口減少数 1,552人 【全国 6位】(H27.3)
- 大学進学率 42.8% 【全国40位】
- 2040年には20～39歳女性人口が半分以下の自治体数は9割近く 【全国 2位】
- 合計特殊出生率 1.40 【全国37位】
- 平均寿命年齢 【全国47位】

※青森県情報、総務省統計局情報、厚生労働省統計、日本創成会議資料等より作成

## 青森県基本計画 未来を変える挑戦

アグリ(農林水産業)・ライフ(医療・健康・福祉産業)・グリーン(環境・エネルギー産業)ごとに政策・施策を設定し、以下の分野横断的な戦略プロジェクトに取り組む。

### 1. 人口減少克服プロジェクト

子育て支援、雇用創出・拡大、安全で快適な生活環境、観光・交流人口増

### 2. 健康長寿県プロジェクト

自然・食・観光の活用、生活習慣の改善、適切な治療、スポーツ

### 3. 食でとことんプロジェクト

県内産品の多角的な価値創出、食の価値を高める、外貨獲得・域内循環

## 産学官民協働による地域ブロック展開とブロック横断による広域ネットワーク

高等教育機関 県内四年制大学の約8割 総学生数 約13,000人  
 弘前大学／東北女子大学／弘前学院大学／弘前医療福祉大学  
 青森中央学院大学／青森県立保健大学／青森中央短期大学  
 八戸工業高等専門学校／八戸工業大学／八戸学院大学

### 自治体 県内人口約6割をカバーする中心都市

青森県／青森市／弘前市／八戸市／むつ市

### NPO法人 地域づくり・若年者を巻き込む活動に実績

・プラットフォームあおもり／ぶらっと下北／CROSS(八戸市) 等

### 企業等 全県的な産金のネットワークと個性ある地元企業

・県工業会・商工会議所・銀行協会／マスコミ／「食」企業他 約100社

## 弘前大学 (COC+大学)

### 教育改革

#### COCの取組(地域志向人財の育成)

- 地域「実践力」を育成する初年次教養教育
- 入学から卒業までの「地域を志向したキャリア教育」
- 「専門知」と「地域の課題」を交差させる「専門力」を育成する専門教育

#### COC+の取組

- 地域で生活し、地域で働き、地域創生に取り組む人財育成



○地域志向教育の拡充(200科目開講、5科目以上履修)  
 →「ローカル科目」群、「グローバル科目」群(必修)/ネット  
 ワークによる遠隔授業の実施

○創造力・仲間力を試すPBL

→初年次「地域学ゼミナール」/文理融合による課題解決PBL「学部越境型地域志向科目」「学生提案PBL」

○キャリア教育とインターンシップのデュアル・システム  
 →理論と実践によるキャリア支援、全学生(除く教医)が  
 インターンシップ等のプログラムを体験

### ブロック事業

※各地域ブロックで産官学による就職・起業支援を展開

BC【青森ブロック】

★青森中央学院大／青森市等

BC【弘前ブロック】

★弘前大／弘前市等

BC【八戸ブロック】

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

BC【むつブロック】

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

★むつブロック

★弘前大／むつ市等

★むつブロック

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

★むつブロック

★弘前大／むつ市等

★むつブロック

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

★むつブロック

★弘前大／むつ市等

★むつブロック

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

★むつブロック

★弘前大／むつ市等

★むつブロック

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

★むつブロック

★弘前大／むつ市等

★むつブロック

★八戸高専(000探歌)／八戸市等

★むつブロック

★弘前大／むつ市等

★むつブロック

## コーディネーター・マネージャー連絡会議

## COC+推進コーディネーター

## 青森COC+推進機構

【機構長】弘前大学長

## 地元就職率の向上(38.1%→48.1%)・雇用創出

### (1) 地元企業に就職したい! 【就活支援ネットワークの構築】

- ① 学生企画による企業調査/会社ツアー/就活説明会等
- ② 地域版共育型インターンシップの開発・実施
- ③ 中小企業の若者ネットワークづくり/就職後のキャリアアップ支援

### (2) 自分たちで仕事を始めたい! 【学生の起業支援】

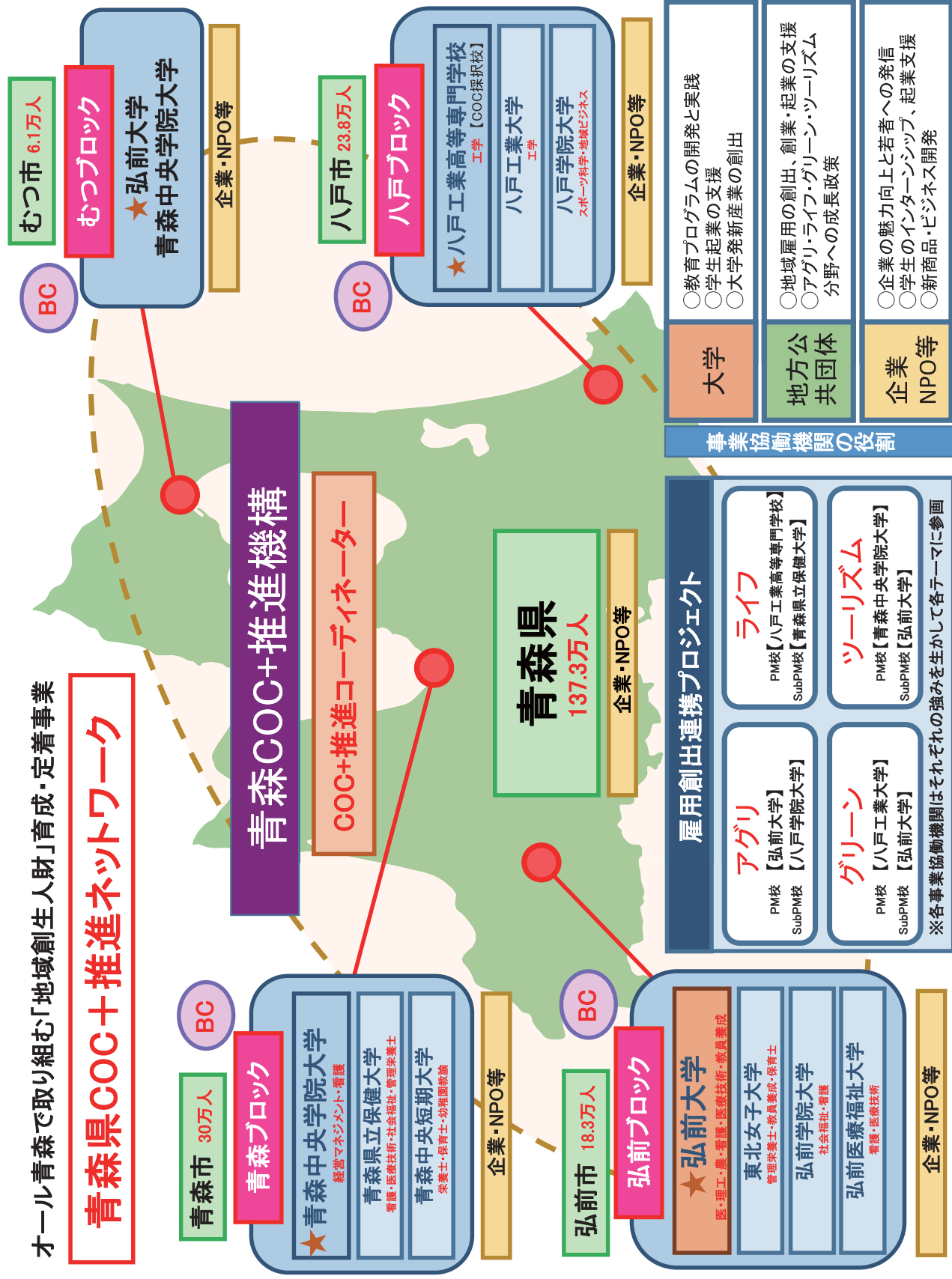
- ① ホップ・ステップ・ジャンプ型起業実行プログラムの開発・実施
- ② 学生の起業アイデアのインキュベーション[孵化](アドバイザーによる起業支援、支援センターの設置)
- ③ イノベーション・ベンチャーコンテストの実施

### (3) 大学発新産業・ビジネスで雇用創出! 【雇用創出連携プロジェクト】

- |    |         |                       |                       |
|----|---------|-----------------------|-----------------------|
| PM | 弘前大     | ① アグリ関連産業プロジェクト       | 農産物の品種改良とブランド化、6次産業研究 |
| PM | 八戸高専    | ② ライフ(医工連携)関連産業プロジェクト | 医療福祉産業機器・サービスの開発      |
| PM | 八戸工業大   | ③ グリーン関連産業プロジェクト      | 効率的な自然エネルギーの開発        |
| PM | 青森中央学院大 | ④ ツーリズム関連産業プロジェクト     | 青森版クアオルト(温泉保養地)のビジネス化 |

オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

青森県COC+推進ネットワーク



青森COC+推進機構

COC+推進コーディネーター

青森県 137.3万人  
企業・NPO等

雇用創出連携プロジェクト

<b>アグリ</b> PM校【弘前大学】 SubPM校【八戸学院大学】	<b>ライフ</b> PM校【八戸工業高等専門学校】 SubPM校【青森県立保健大学】
<b>グリーン</b> PM校【八戸工業大学】 SubPM校【弘前大学】	<b>ツーリズム</b> PM校【青森中央学院大学】 SubPM校【弘前大学】

※各事業協働機関はそれぞれの強みを生かして各テーマに参画

事業協働機関の役割

<b>大学</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育プログラムの開発と実践</li> <li>○学生起業の支援</li> <li>○大学発新産業の創出</li> </ul>
<b>地方公共団体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域雇用の創出、創業・起業の支援</li> <li>○アグリ・ライフ・グリーン・ツーリズム分野への成長政策</li> </ul>
<b>企業・NPO等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業の魅力向上と若者への発信</li> <li>○学生のインターンシップ、起業支援</li> <li>○新商品・ビジネス開発</li> </ul>



# 地(知)の拠点

## 2. 実施体制

---

Organization



## 【1】 青森COC + 推進機構

### 1. 青森COC + 推進機構の設立趣意

「地方創生」が大きな社会的な政策課題となる中、青森県においても人口減少の克服が最重要かつ緊急の課題となっている。

地方創生の中心となるのは言うまでもなく人財である。今日、青森の未来を担う人財を育成することこそが大学等の最も重要な使命となっている。また同時に、大学等を核とした地域産業の活性化や雇用創出に貢献することへ、かつてない大きな期待が寄せられている。

こうした地域の課題と要請に応えていくには、大学等と地方公共団体、地域企業、NPO等との連携・協働のネットワークを構築し、全県的な体制による総合的・一体的な取組が必須である。

このため、ここに「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」を中核に、地方創生・人口減少の克服に向けた全県的な取組を果敢に実行するべく「青森COC+推進機構」を設立する。

### 2. 青森COC + 推進機構の設立

平成27年度に弘前大学、COC+参加校、COC+参加自治体との間で締結された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定」を受け、「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」を中核に、地方創生・人口減少の克服に向けた全県的な取組を果敢に実行するべく、「青森COC+推進機構」を設立した。

本機構は、弘前大学長を機構長とし、弘前大学、COC+参加校、COC+参加自治体の代表者をもって構成され、事業の計画・立案や予算及び執行、評価等の事項を所管する。

### 3. 青森COC + 推進機構会議

本機構に、機構の運営及び事業の重要事項を審議するため、「青森COC+推進機構会議」を設置した。

機構会議は、機構長、副機構長、COC+推進コーディネーターをもって構成される。

### 4. 外部評価委員会

本機構に、事業に関して第三者による客観的な評価を行うため、「外部評価委員会」を設置した。

外部評価委員会は、学識経験者、行政機関関係者、企業等関係者等をもって構成される。

### 5. COC + 推進コーディネーターの設置

本機構に、事業推進のための進捗管理、連絡調整、経費の配分方針に関する業務を遂行するため、「COC+推進コーディネーター」を設置し、平成27年12月に吉川源悟氏が就任した。

## 【2】 教育プログラム開発委員会

青森COC+推進機構に、地域創生人財の育成に係るプログラムを開発するため、弘前大学理事(教育担当)を委員長とした、「教育プログラム開発委員会」を設置した。開発委員会委員は抱える課題等を踏まえ、各プログラムのワーキンググループ(WG)ごとに分属になって研究検討を進める。

開発プログラム名	ワーキンググループ (WG) 参加大学等名		
①共育型インターンシップ・プログラム	青森中央学院大学 (主査校)	八戸工業大学	
②女子学生のキャリア支援プログラム	青森県立保健大学 (主査校)	東北女子大学	弘前学院大学
	弘前医療福祉大学	青森中央短期大学	
③起業実行プログラム	八戸学院大学 (主査校)	弘前大学	八戸工業高等専門学校

## 【3】 雇用創出連携プロジェクト

雇用創出連携プロジェクトにおいて、それぞれのテーマに強みを持つ大学にプロジェクト・マネージャーを置き、関係する大学・企業との連携調整を行うとともに、事業の進捗を管理する。

プロジェクトテーマ	プロジェクト・マネージャー校	サブ・プロジェクト・マネージャー校
アグリ	弘前大学	八戸学院大学
ライフ	八戸工業高等専門学校	青森県立保健大学
グリーン	八戸工業大学	弘前大学
ツーリズム	青森中央学院大学	弘前大学

## 【4】 事業協働機関

### ■ COC+大学・参加校 計10校

区分	事業協働機関名		
COC+大学	弘前大学		
参加校	青森県立保健大学	東北女子大学	八戸工業大学
	弘前学院大学	八戸学院大学	青森中央学院大学
	弘前医療福祉大学	青森中央短期大学	八戸工業高等専門学校

### ■ 参加自治体 計5自治体

区分	事業協働機関名		
参加自治体	青森県	青森市	弘前市
	八戸市	むつ市	



## ■ 参加企業等(青森ブロック) 計28機関

区分	事業協働機関名		
参加企業等 (青森ブロック)	青森朝日放送株式会社	株式会社青森銀行	青森経済同友会
	一般社団法人青森県銀行協会	青森県警察本部	一般社団法人青森県工業会
	一般社団法人 青森県情報サービス産業協会	青森県信用組合	青森商工会議所
	株式会社青森テレビ	青森放送株式会社	NPO法人 青森未来エネルギー戦略会議
	株式会社大坂組	株式会社オカムラ食品工業	協同組合カクヒログループ
	DCMサンワ株式会社 (旧 株式会社サンワドー)	株式会社 JR東日本青森商業開発	一般社団法人慈恵会
	協同組合タッケン	合同会社tecoLLC.	株式会社東奥日報社
	公益財団法人21あおもり 産業総合支援センター	株式会社ビジネスサービス	株式会社富士清ほりうち
	医療法人芙蓉会	NPO法人 プラットフォームあおもり	丸大堀内株式会社
	株式会社みちのく銀行		

## ■ 参加企業等(弘前ブロック) 計28機関

区分	事業協働機関名		
参加企業等 (弘前ブロック)	青森県農村工業農業協同組合 連合会	公益財団法人鷹揚郷	カネショウ株式会社
	キヤノンプレジジョン株式会社	株式会社小林紙工	株式会社シバタ医理科
	東奥信用金庫	東北化学薬品株式会社	弘果弘前中央青果株式会社
	株式会社弘前公益社	弘前航空電子株式会社	弘前商工会議所
	フジプラント株式会社	ブナコ株式会社	前田酒類食品販売株式会社
	マルマンコンピュータサービス 株式会社	三ツ矢交通株式会社	株式会社陸奥新報社
	株式会社ラグノオささき	一般財団法人黎明郷	六花酒造株式会社
	青森オリンパス株式会社	地方独立行政法人 青森県産業技術センター	環境保全株式会社
	株式会社木村食品工業	株式会社光城精工	株式会社あおもり海山
	東和電機工業株式会社		

■ 参加企業等(八戸ブロック) 計44機関

区分	事業協働機関名		
参加企業等 (八戸ブロック)	青い森信用金庫	一般財団法人 青森県工業技術教育振興会	アルバック東北株式会社
	エスプロモ株式会社	エプソンアトミックス株式会社	株式会社オダプリント
	株式会社抗菌研究所	株式会社サン・コンピュータ	株式会社サンデー
	株式会社ジーアイテック	NPO法人 循環型社会創造ネットワーク	大平洋金属株式会社
	武輪水産株式会社	多摩川精機株式会社八戸事業所	中発テクノ株式会社
	有限会社塚原	株式会社デーリー東北新聞社	東京鉄鋼株式会社 環境リサイクル事業部
	東北建機工業株式会社	東北容器工業株式会社	ツールジオ株式会社
	ノーザンライツ株式会社	八戸ガス株式会社	八戸鉱山株式会社
	八戸酒造株式会社	八戸商工会議所	八戸製錬株式会社八戸製錬所
	八戸セメント株式会社	公益財団法人 八戸地域高度技術振興センター	株式会社マーシュ
	マネックス証券株式会社	マルヨ水産株式会社	三菱製紙株式会社八戸工場
	三八五自動車整備工業株式会社	三八五流通株式会社	株式会社よこまち
	株式会社吉田産業	株式会社リゲイン	株式会社 ササキコーポレーション
	有限会社身土不二	太子食品工業株式会社	大蔵工業株式会社
	株式会社東北産業	東北三吉工業株式会社	

■ 参加企業等(むつブロック) 計7機関

区分	事業協働機関名		
参加企業等 (むつブロック)	有限会社サンマモルワイナリー	NPO法人ぶらっと下北	むつ商工会議所
	株式会社マエダ	国立研究開発法人日本原子力研究 開発機構青森研究開発センター	日本原燃株式会社
	むつ小川原港洋上風力開発 株式会社		

# 3. 実施内容

---

Contents



## 【1】 会議・総会等

### 1. 青森COC+推進機構会議・青森COC+推進機構総会

平成28年6月30日(木)、「青森COC+推進機構会議」及び「青森COC+推進機構総会」を弘前市内で開催した。

青森COC+推進機構は、平成27年度に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」を統括するために設立された、青森県内の大学・高専計10校、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市の代表者からなる組織で、弘前大学長が機構長を務める。

総会に先立って開催された「青森COC+推進機構会議」には、機構長の佐藤弘前大学長、副機構長の花田青森中央学院大学長と岡田八戸工業高等専門学校長、監事の上泉青森県立保健大学長と大谷八戸学院大学長、吉川COC+推進コーディネーターの6名が出席し、総会に諮る事項についての確認と審議を行った。

続いて開催された「青森COC+推進機構総会」には、機構員である各大学長・校長・自治体関係者ら16名が出席し、佐藤機構長の挨拶の後、平成27年度の実施状況報告、監事監査報告やCOC+推進コーディネーターからの所感、平成28年度の計画及び予算説明等がなされ、事業目標達成に向けての取組が十分に実施されていることを確認した。

### 【青森COC+推進機構会議】



【青森COC+推進機構総会】





## 2. ブロック会議

ブロック事業では、青森県を青森市・弘前市・八戸市・むつ市を中心とした4つのブロックに分け、それぞれブロックを核とした事業を展開する。このため、各ブロックごとに大学・自治体・企業等の担当者によるブロック会議を開催し、各ブロックの地域の特性を踏まえた現状や課題についてあらためて情報共有と共通認識を図り、当該特性を踏まえた事業を検討した。

平成28年度に開催された各ブロック会議は以下のとおり。

### ■ 青森ブロック

日 時： 平成28年7月4日(月) 16:00～17:30

場 所： ホテル青森 4階 椿の間

- 議 事： 1. 平成27年度COC+活動実績報告について  
2. 平成28年度事業計画について  
3. その他(意見交換)

日 時： 平成28年12月2日(金) 13:30～15:00

場 所： ホテル青森 4階 桜の間

- 議 事： 1. 今年度の取り組み状況及び今後の予定について  
2. COC+における青森県内就職率実績と事業目標値について  
3. 青森県の大学生が作る、青森県大好きマガジン「SCENE」について  
4. 起業セミナーについて  
5. その他(意見交換)

日 時： 平成29年3月16日(木) 13:30～15:00

場 所： ホテル青森 4階 椿の間

- 議 事： 1. 平成29年度事業計画(COC+青森ブロック)について  
2. 女子学生のキャリア支援プログラム開発の取組状況について(青森県立保健大学)  
3. 平成29年度県民局重点枠事業について(東青県民局地域連携部)  
4. 平成29年度青森市主な取組について(青森市政策推進課)  
5. その他(意見交換)



## ■ 弘前ブロック

- 日時： 平成28年5月26日(木) 13:00～14:30  
場所： 弘前大学 総合教育棟1階 共用会議室  
議事： 1. 構成員自己紹介  
2. 平成27年度COC+事業取組状況について  
①概要説明  
②各大学の取組状況  
3. 平成28年度ブロック事業について  
4. 意見交換  
5. その他

- 日時： 平成28年12月9日(金) 9:30～11:00  
場所： 弘前大学 総合教育棟1階 共用会議室  
議事： 1. 平成28年度弘前ブロック事業進捗状況について  
2. 弘前ブロック担当者会議について  
3. 県内定着に関連した取り組みについて  
青森県中南県民局／弘前市／弘前商工会議所  
4. 意見交換  
5. その他



## ■ 八戸ブロック

- 日時： 平成28年4月14日(木) 10:00～12:00  
場所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室  
議事： 1. 平成28年度各校担当者紹介  
2. 平成28年度ブロック事業について  
①イノベーション・ベンチャーコンテスト(仮)  
②あおもり県南地域企業内容説明会(仮)  
3. その他



- 日 時： 平成28年11月7日(月) 15:00～16:00  
 場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室  
 議 事： 1. 「あおもりの企業の魅力を再発見！あおもり県内企業内容説明会」アンケート集計結果について  
 2. イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016～地域を元気にする学生の提案～募集要項(案)」について  
 3. その他

- 日 時： 平成29年2月23日(木) 16:00～17:00  
 場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室  
 議 事： 1. 「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016」アンケート集計結果について  
 2. 平成29年度八戸ブロック事業計画書・予算計画書について  
 3. 平成29年度「企業内容説明会」・「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト」日程調整について  
 4. その他

## ■ むつブロック

- 日 時： 平成28年4月22日(金) 13:00～14:30  
 場 所： むつ市役所本庁舎 第1会議室  
 議 事： 1. 平成28年度COC+むつブロック事業の提案について  
     ①弘前大学からの提案  
     ②青森中央学院大学からの提案  
     ③むつ市からの提案  
     ④その他  
 2. 平成28年度COC+むつブロック事業「年間計画(案)」について

- 日 時： 平成28年5月31日(火) 13:30～15:30  
 場 所： むつ市役所本庁舎 第4会議室  
 議 事： 1. COC+むつブロック会議の位置づけについて  
 2. 個別事業の検討状況について  
     ①弘前大学  
     ②青森中央学院大学  
 3. 平成28年度COC+むつブロック事業について  
     ①むつブロック事業一覧  
     ②むつブロック事業に係る予算について

むつブロックでは、弘前大学、青森中央学院大学、むつ市の担当者によるワーキンググループを設置し、事業実施に関する検討や意見交換を行った。

平成28年度のむつブロックのワーキンググループはテレビ会議システムを利用して、平成28年6月21日(火)、7月5日(火)、7月26日(火)、9月8日(木)、10月18日(火)、平成29年1月16日(月)の計6回開催した。



### 3. コーディネーター会議

平成28年5月30日(月)、本事業推進のための進捗管理、連絡調整等を遂行するCOC+推進コーディネーターがコーディネーター会議を主宰し、各ブロックの進捗状況及び今後の予定について意見交換を行った。

- 日時： 平成28年5月30日(月) 14:00～16:00  
場所： 青森国際ホテル 本館5階 金扇の間  
議事： 1. 平成27年度COC+事業取組状況について  
2. 平成28年度ブロック事業について  
3. 意見交換  
4. その他



#### 4. コーディネーター・マネージャー連絡会議

平成28年11月18日(金)、コーディネーター・マネージャー連絡会議を開催した。COC+推進コーディネーターと各ブロック・コーディネーター、各雇用創出連携プロジェクトのプロジェクト・マネージャーが出席し、地域ブロックごとに実施する就職・起業支援事業と全県的に大学研究者と企業が連携して進める雇用創出事業の進捗状況を確認した。

- 日 時： 平成28年11月18日(金) 13:30～16:30  
場 所： 青森国際ホテル 別館4階 むつ湾  
議 事： 1. 各事業における進捗状況について  
2. その他





## 【2】 教育プログラム開発

### 1. 教育プログラム開発委員会の開催

平成29年2月16日(木)、「教育プログラム開発委員会」を弘前大学総合教育棟2階大会議室にて開催し、事業協働機関である大学等、自治体、企業・NPO等から選出された委員19名が出席した。

教育プログラム開発委員会は弘前大学理事(教育担当)を委員長とし、地域創生人財の育成に係る「共育型インターンシップ・プログラム」、「女子学生のキャリア支援プログラム」、「起業実行プログラム」などの教育プログラムを開発するために設置され、各プログラムについてワーキンググループを形成する。

2回目となる今回の委員会では、各ワーキンググループごとの分科会が行われ、平成28年度の進捗状況の報告や事業終了時までの到達目標の検討を行い、活発な議論が交わされた。その後、全体会において各教育プログラム開発についての進捗状況と次年度の活動計画が報告された。



## 2. 共育型インターンシップ・プログラム

### (1) ワーキンググループの開催

共育型インターンシップ・プログラムのワーキンググループ主催校である青森中央学院大学が主体となって、ワーキンググループを2回開催し、問題意識やゴールイメージを共有し、インターンシップの具体化を進めた。

#### 第1回ワーキンググループ会議

日時： 平成28年6月3日(金) 16:00～17:30

場所： ホテル青森 4階 桃の間

- 議事： 1. 今年度ワーキンググループが取り組む内容及び各メンバーの役割について  
2. 「共育型インターンシップ～学生と共に育つ企業のためのガイドブック～」の発行について  
3. その他(意見交換)

#### 第2回ワーキンググループ会議

日時： 平成28年12月21日(水) 13:00～14:30

場所： 青森国際ホテル 5階 銀扇の間

- 議事： 1. 平成28年度の取り組み状況及び実績について  
2. 平成29年度取り組みの基本的方向性について  
3. その他(意見交換)

### (2) ガイドブック作成

共育型インターンシップ・ワーキンググループでは、共育型インターンシップ学生を受け入れる企業のために、①一般的な短期インターンシップとの違いや特徴及び企業・学生のメリット②共育型インターンシップの事前準備から中間研修、終了・振り返りまでの実際の流れ③経営者の本気度、課題・具体的な活動内容の確認及び成果目標の設定など、全体のプロジェクト設計の手順④社内の受入体制やリスク対策などの環境整備など、実施にあたっての事前準備のチェックポイントを解説した共育型インターンシップ「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」をメンバーであるNPO法人プラットフォームあおもりの制作協力のもと作成した。





### (3) 企業向け共育型インターンシップフォーラム

共育型インターンシップが地域に提案されている背景と目的を地域の企業に説明し、実施事例を報告して理解と協力を得るため、平成28年11月4日(金)に「企業向け共育型インターンシップフォーラム」をホテル青森で開催し、県内企業・自治体関係者、大学関係者など43名が参加した。

COC+事業概要の説明後、事例紹介として株式会社青森テレビの「共育型インターンシップ導入の狙い」と、株式会社若山経営の「COC+事業における当社の取組」が示された。また、共育型インターンシップの流れ及び全体のプログラム設計について、「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」を活用したワークショップが行われた。



### (4) 共育型インターンシップ受入企業／団体向け勉強会

平成28年11月9日(水)、弘前大学総合教育棟1階共用会議室において、「共育型インターンシップ受入企業／団体向け勉強会」を開催した。

勉強会では、長年にわたり中長期実践型インターンシップを実施してきた、NPO法人ETIC.(エティック)の伊藤淳司氏を講師として招き、「受入企業の実践型インターンシップ導入における提供価値とメリット・デメリットを体感する」と題した講演が行われた。NPO法人ETIC.は、1993年より活動を開始し、これまでに3,000名以上の学生が事業に参画している。

その後、導入を検討している3つの受入企業／団体を対象に、インターンシップのプロジェクト設計を行った。プロジェクトの設計は、参加者が3グループに分かれてワークショップ形式で実施した。最後に、設計した3つのプロジェクトを発表し、それぞれのプロジェクトに対する伊藤淳司氏の講評、及び参加者による活発な意見交換が行われた。



### (5) 共育型企業インターンシップ学生募集説明会

平成28年12月7日(水)、弘前大学総合教育棟4階405講義室において、「共育型企業インターンシップ学生募集説明会」を開催し、学生約30名が参加した。

インターンシップ受入企業は、下北郡東通村で印刷物制作やイベント企画を主要事業としている「有限会社コスモクリエイト」と、青森市のITベンチャー企業でソフトウェア開発やコンピュータのコンサルティング等を主要事業としている「株式会社リンクステーション」の2社である。

説明会では、まず、中長期間のインターンシップのイメージを参加学生に持ってもらうため、既にインターンシップに参加した学生3名による体験談の報告を行った。次に、企業2社の担当者がインターンシッププロジェクトの説明を行い、会社の紹介やプロジェクトの内容が示され、またどのような人材が必要なのかの説明がなされた。その後は学生による質疑応答が行われ、説明会の終了後も、積極的に企業担当者や大学担当者に質問している学生の姿が見られた。



### 3. 女子学生のキャリア支援プログラム

#### (1) ワーキンググループの開催

下記のとおり開催し、事業計画や調査結果の分析などについて、協議・意見交換を行った。

- ①開発・実施委員会(学内小委員会)を、4月18日(月)、8月10日(水)、10月20日(木)の3回開催した。
- ②開発・実施委員会(学内委員会)を、6月13日(月)、1月10日(火)、3月17日(金)の3回開催した。
- ③教育プログラムWG会議を、8月4日(木)、10月25日(火)、2月7日(火)の3回開催した。



#### (2) 女子学生のキャリア・生活指向と地元定着の関連を知るための実態調査

平成27年度に実施したインタビュー調査の結果、学生が「文化・地域への価値」「人とのつながり」「仕事・職場への価値」「将来設計」の間でバランスを取り、自分が重要と感じている事柄を吟味し、卒業後の生き方を決めていると分析し、これをアンケート調査の項目やプログラム標準モデル(原案)のテーマとして反映させた。

また、視察調査では、COC+事業の先進・特徴的な事例を調査することによってプログラム開発の参考となるデータ等を得ることができた。

- 平成27年度卒業生、在学生(WG参加校)へのインタビューの取りまとめと分析
- ※分析結果については、「6. 参考資料(83～84ページ)」を参照
- 卒業生、在学生(WG参加校)へのインタビュー調査 (20名)
- 香川県立保健医療大学・高知大学への視察調査
- アンケート調査：平成29年1月～3月初旬にWG参加校で実施・集計 (約490部回収)

#### (3) 「くらす?はたらく」シリーズsession1 ～女社会?男社会～

学生に自分の「生活」と「キャリア」について、深く考察・理解した上で地元定着を選択してもらうことを目的とする教育プログラムとして「くらす?はたらく」シリーズを企画した。

第1弾として「～女社会?男社会～」を実施し、「社会に出て自分が大切にしたいこと」をテーマにワールドカフェ形式にて行い、参加学生が県内で働くゲストスピーカーとコーディネーターから多様な経験談を聞くことができるよう配慮した。

参加学生からは、「将来の働き方を考える良い機会となった」、「自分の考えを深める良い場づくりができた」などの感想が寄せられ、非常に好評であった。





#### (4) 新卒看護職の採用力向上セミナー（入門編）

学生の県内定着を図っていくためには、受け皿側の意識やノウハウについても働きかけが必要であるとの観点から、採用側への県内就職を促す支援として、「新卒看護職の採用力向上セミナー（入門編）」を平成28年12月3日（土）に開催し、11施設42名が参加した。

専門家の講演及びワークショップを通じて、県外や看護業界の新卒採用の現状や最新のトレンド、事例紹介、採用にあたっての課題や戦略についての理解を図った。なお、参加者の募集にあたっては、速やかな実行へ結びつけるために、看護部門責任者と人事担当者の両者の参加を条件とした。前例のない形式であったが、定員の10施設を超える申込みがあり、参加者から大きな好評を得た。



#### (5) WG平成27年度・28年度成果報告リーフレット

事業の内容を周知し、今後実施していく各種事業への協力・参加を促進するとともに、関係者等に自らの取組に興味・関心を持ってもらうツールとして、これまでの事業成果をとりまとめたリーフレットを作成した。



## 4. 起業実行プログラム

### (1) 起業家養成集中講義

平成29年3月1日(水)から3日間の日程で、「起業家養成集中講義」を八戸ワシントンホテルで開催し、県内を中心とした大学生など9名が参加した。この集中講義は、COC+事業の学生発起業実行プログラムとして、八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センターがもつ「起業家養成講座」のコンテンツを活用し、起業に関心を持っている学生を対象として初めて開催したものであり、参加した受講生から起業への熱い思いの感じられる3日間であった。

大谷真樹八戸学院大学長が主任講師を務め、第一線で活躍中の実業家・起業家や各分野の専門家が講義を担当、「VISION・MISSION・価値の創造」、「ビジネスプランとファイナンス」、「起業に必要なマインドと戦略」並びに「事業化とブランディング」など起業にかかわる最新のノウハウを学びながら、最終日には各グループが作成したビジネスプランのプレゼンテーションを実施し、意見交換を行った。

3日間の講義を終えて受講生からは、「無理かもしれないことでも突きつめていくことでモノになることに気付いた」、「ビジネスの一端を垣間見ることができ非常に新鮮だった」、「チームで動くときの役割や視点を学ぶことができ、これからの起業に活かしたい」などの感想が寄せられた。

また、「今回のような起業家養成のプログラムを、大学でも講義として取り入れて欲しいと思いますか」との質問には、ほとんどの受講生が取り入れて欲しいと回答、なかには「今まで受けたビジネス関連の講義で一番実践的であった」との声もあった。





### 【3】 共育型インターンシップ

共育型インターンシップとは、学生と企業や地域、双方の成長を目指した新しいインターンシップである。平成28年度は企業インターンシップ6件、地域インターンシップを2件実施した。

#### 1. NHK 青森放送局 企業インターンシップ 【青森ブロック】

平成28年8月4日(木)から9月2日(金)まで、青森中央学院大学の学生4名がNHK青森放送局の実施する共育型インターンシップに参加した。

学生に与えられた課題は、9月21日(水)放送の青森発地域ドラマ「進め！青函連絡船」の認知度向上と視聴者の獲得及び若者のNHK接触率の向上である。

具体的な活動内容は、プレ・オリエンテーションとドラマロケ見学(ラーメンショップ幸畑店、八甲田丸)を皮切りに、第1週目にオリエンテーションによるインターンシップの目的の再確認とゴールの明確化、NHKの基本、局内探検ツアー及びプロモーションの課題設定とNHK管理職員からアドバイスを得ながらの企画立案を行った。また初日には青森ねぶた祭りでNHKねぶたの運行と広報物配布を行った。

第2週目は、青函連絡船を知らない若者代表として、青森から函館までフェリーで移動しながら当時の旅を疑似体験し、2日間にわたって函館で取材活動を実施した。フェリーでの移動中にはNHK公式Twitterで若者向けに情報発信し、函館取材では、「海峡ラーメン」の生みの親を訪ね、函館山で観光客にPRうちわを配布した。

第3週目には、番組のHPコンテンツ作成のため青森駅前と八甲田丸を取材し、文書を作成した。

最終週は、「思い出の青函連絡船」に投稿した視聴者への取材ロケを実施し、取材の心構えと準備、VTRの構成・編集作業を行った。また、テレビ番組「あっぷるワイド」及びラジオ番組「アップラジオ」に出演した。

本インターンシップの成果として、参加学生からは、「将来の目標や職業選択の視野が広がった」、「リーダーシップの大切さと難しさを学んだ」、「事前準備の大切さを知ることができた」、「アルバイトは“できること”だけ、インターンシップは“できないこと”に挑戦できる」など学生の成長が感じられる声が多くあがった。

受入企業であるNHK青森放送局の担当者からは、「学生に見られているということから現場に活気が出たこと、また今回の企画を準備する段階で様々なことを調べたことにより、自分の会社への理解がさらに深まった」との感想が寄せられた。



## 2. 株式会社青森テレビ 企業インターンシップ 【青森ブロック】

平成29年2月15日(水)から3月30日(木)まで、青森中央学院大学の学生4名が株式会社青森テレビの実施する共育型インターンシップに参加した。

学生に与えられた課題は、夕方の情報ワイド番組「わっち!!」の新年度コーナーを企画・制作することを通じて、地域に暮らす多様な人々をよりよく「つなげる」仕組みを青森テレビと一緒に考え、番組コンテンツを企画・提案することである。

事前学習として産業カウンセラーを講師に迎え、仕事との関わり、ビジネスマナー、仕事に対する姿勢など、実践的な研修を行った。

第1週目は、オリエンテーションとして①テレビというメディアの仕組み②地方テレビ局の現状③青森テレビが目指す姿を理解し、そして、地域のニーズや情報にふれ、自分たちの役割を理解するために、座学、社内見学、スタジオ見学を実施した。

第2週目は、過去に放映された「わっち!!」の番組を観ながら、番組のコンセプトや課題、魅力について考え、地域の人々とどのように「つながっているか」を探った。同時に青森テレビの課題、魅力について学生の視点で担当者と意見交換を行った。

第3週目、第4週目では、SNSなどで多様な世代間の情報共有ができるコンテンツづくりを目指して番組企画書を作成し、報道制作局長、部長へのプレゼンテーションを実施した。またプレゼンの後、局長や部長からの指摘を受けて、企画書の改定を行った。

本インターンシップを通じて、番組を企画、創っていくという過程では、様々な知識や情報、チームによる地道な努力が必要であること、また地域を元気にするには、多様な人々の集まりからの情報発信による「つながり」が大切であることなどを実感し、学生たちにとって視野が広がり成長できる良い機会となった。

青森テレビからは、「これまでの常識にとらわれない学生の発想が非常にユニークで、今後の番組創りに向けて新しいヒントを得た」との感想が寄せられた。



## 3. 株式会社若山経営 企業インターンシップ 【青森ブロック】

平成29年3月6日(月)から3月31日(金)まで、青森中央学院大学の学生2名が株式会社若山経営の実施する共育型インターンシップに参加した。

学生が取り組む内容は、青森市内の中小企業の実態を訪問調査して「魅力ある県内企業」とはどのような企業かを検討し、検証結果を取りまとめることである。事前に企業担当者との面談、学生からのヒアリングを実施したほか、産業カウンセラーを講師に招き、仕事との関わり、ビジネスマナー、仕事に対する姿勢など、実践的な実技を伴う講習を行った。



青森市内の中小企業の実態調査を実施するにあたり、①ヒアリング内容の確認②各企業の課題・解決策③学生が就職したくなる企業④企業の魅力を大学生に情報発信する手段などを主な内容として、4週間にわたって青森市内25社以上の企業を訪問し、経営者や社員にヒアリングを行った。そして、実態調査を通じて魅力ある県内企業についての提案を報告書にまとめ、インターンシップ受入先企業及び大学に提出した。

参加学生からは、「青森市内には多くの学生が知らない素晴らしい企業がたくさんあると実感し、それにより将来の職業選択の幅が格段に広がった」との感想が寄せられた。また同時に各企業の情報発信力が弱いため学生に周知されていない現状を知り、今後は多くの学生に伝えていきたいと意を強くしていた。

訪問先の企業からは、「学生に説明する難しさ、伝えることの大切さを気付かされた」、また受入先の企業からは「共育型インターンシップを通じてそれぞれの成長につながる良い機会だった」との感想が寄せられた。



#### 4. 有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリー 企業インターンシップ 【弘前ブロック】

平成29年2月14日(火)から3月10日(金)までの約4週間、西津軽郡鱒ヶ沢町にある有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリーにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学農学生命科学部園芸農学科2年の女子学生1名が参加した。受入企業であるジャージー・ファームズ・ファクトリーは、家族で「ABITANIA (アビタニア) ジャージーファーム」を経営しており、日本では頭数の少ないジャージー牛の酪農、乳製品の製造・販売、食肉の加工・製造・販売を行っている。

本インターンシップは、受入企業で製造している乳製品の販路開拓(契約1件)、及び販路開拓で訪問した店舗等の反応や意見の収集を目的とし、販路の開拓先は、神奈川県横浜市を対象とした。

活動は、実際に牧場での作業を行い、乳製品の原材料がどのような環境で生産されているのか、また経営者は何を重視して作業を行っているのかを、実体験を通して理解することから始めた。それらを踏まえて、乳製品の販路開拓のための営業資料を作成し、最初の営業活動を実施した。この営業活動の結果や参加学生の活動状況に期待した成果が見られなかったため、当初は神奈川県横浜市での販路開拓であったプロジェクトを再設計し、弘前市内での営業活動に変更するとともに、営業資料の内容や営業計画及び営業プロセスの見直しを行った。それに基づき、弘前市内で活動を開始し、参加学生が独自の視点や判断で販路開拓を実施し、8件の店舗を訪問した。

参加学生の想いや取組姿勢に評価を得ることができ、平成29年度は、さらに長期のインターンシップを実施する予定である。



## 5. 株式会社リンクステーション 企業インターンシップ【弘前ブロック】

平成29年2月16日(木)から3月17日(金)までの約4週間、青森市にある株式会社リンクステーションにおいて、共有型インターンシップを実施し、弘前大学人文社会科学部社会経営課程1年の男子学生1名が参加した。

受入企業であるリンクステーションは、ITベンチャー企業であり、主要事業はセブン-イレブン約18,000店で導入されているASP票券管理システム「Getti (ゲッティ)」の運営・管理・販売であるが、並行して、青森を元気にし、暮らしをより良くするための情報WEBサイト「ポみっと！」の運営を行っている。

本インターンシップは、受入企業で運営している情報WEBサイト「ポみっと！」への有料掲載2件(2店舗)を目的に行った。「ポみっと！」への店舗情報掲載は、まず無料掲載の営業を行い、その感触を確かめて有料掲載を勧めていく手順とした。

活動の最初に、経営者の理念や事業について、スーパーバイザーから説明があり、それらの理解を踏まえてWEBサイト「ポみっと！」への掲載方法の講義が実施された。有料掲載へ向けた訪問店舗の選定では、最初に対象とする分野の絞込みを行い、その結果として男性を対象にした「ビューティ」に決定した。次に、対象とした分野で関心・興味のある店舗をリスト化し、アポ取りや営業資料、営業時のスクリプト作成など店舗訪問の準備を進めた。営業に関しては、社員に同行して実際のプロセスや雰囲気、かつどのような会話をどのようなタイミングで行うのかを経験した上で、9店舗に対して「ポみっと！」掲載の営業活動を実施した。

受入企業からは、「経験のない人材を育てる実践的な体験ができ、指導を通して自己の振り返り等ができた」という評価があった。





## 6. 有限会社コスモクリエイト 企業インターンシップ 【むつブロック】

平成29年2月23日(木)から約4週間にわたり、下北郡東通村の有限会社コスモクリエイトにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学人文学部現代社会課程2年の女子学生1名と、東京のNPO法人ETICの地域ベンチャー留学制度を利用した東洋大学観光学科の女子学生1名の計2名が参加した。有限会社コスモクリエイトは、印刷物等のデザインや地域貢献を目指したイベント企画を営んでいる。

本インターンシップは、東通村の地域資源を活用した滞在型観光プランの確立と実施、観光ツアーを行う際に用いるツールの作成を目的とした。

最初の活動として、東通村の地域や観光資源を知るための現地調査を行った。参加学生は東通村に4週間滞在し、観光地や地域名産品の製造現場の視察、まちおこし団体主催の勉強会参加等を通じて村民との交流を深めた。調査結果を踏まえて東通村の地域資源・観光資源をリスト化し、試行錯誤しながらも独自の観光プランを考案した。

その後、実際に観光プランを巡るモニターツアーを企画し、ツアーパンフレットやポスター、ツアーで使用するツールを作成した。平成29年3月21日(火)に開催したモニターツアーには15名が参加し、参加学生もガイドの一部を担当した。

インターンシップを通じて様々な業務を経験することで、参加学生は自らの得手不得手を認識し、新たな自分を再発見した。また受入企業は、生活の一部として日常的に行われていることでも魅力的な観光資源となることを学生により気付かされ、今後の観光プランや地域イベント企画に生かしていくことが可能となった。



## 7. 平成28年度共育型地域インターンシップin田舎館 [弘前ブロック]

### (1) インターンシップの基礎情報

平成28年5月29日(日)から12月2日(金)までの約6ヶ月間、田舎館村役場の企画観光課において、共育型インターンシップ「平成28年度共育型地域インターンシップin田舎館」を実施した。田舎館村役場でのインターンシップは、月3日以上(1日3時間以上)田舎館村に通うことを条件とした。このインターンシップに弘前大学人文学部現代社会課程3年の女子学生2名、同2年の女子学生1名の計3名が参加した。

### (2) インターンシップの活動

インターンシップ最初の2ヶ月は、田舎館村を知るために地域を歩き回りながら地域住民と交流し、また村内で実施されたイベントへの参加やサポート等の活動を行った(田舎館を知る期間)。

その後、イベントへの参加や地域住民との交流から得た経験を踏まえて、学生自らが考えるイベントや活動の企画立案と実施へ向けた準備を進めた(とことん活動期間)。そして参加学生各々が、田舎館村の子どもたちと交流し会話することを重視した「子ども交流企画」、お米に関するすべてを知ってもらいたいと考えた「お米ツアー」、田舎館村の生活を体験するプログラムを検討するための「農家民泊体験」のイベントを企画立案した(企画実践期間)。

それらを踏まえて、成果報告会では、参加学生各々が田舎館村への提案を行った。また活動期間中は、SNSでの情報発信を行った。

田舎館を知る期間	とことん活動期間	企画実践期間
5/29 田んぼアート田植え	8/7 高経との交流②	10/7 お米ツアー本番
6/10 いちご農家訪問	8/9 お米ツアーテスト	10/8 子ども交流
6/11 高経との交流①	9/25 地方創生大臣訪問	10/24 農業体験
6/19 田舎館ぶらっとデー	10/1 高経との交流③	11/18 農家民泊体験
7/17 ねぶた制作	10/2 田んぼアート稲刈り	
8/7 だるリンピック		



田んぼアートの田植えに参加



山本幸三地方創生大臣が田舎館村を訪問



### (3) 参加学生によるイベント・活動の実施

「子ども交流企画」は、平成28年10月8日(土)に実施した。企画には、参加学生3名と地域の子どもたち22名が参加し、将来の夢や田舎館の好きなところを子どもたちがリレー形式で書く「お絵かきリレー」や田舎館村のイメージキャラクター「米こめくん」をチーム全員で協力して描くエクササイズを行った。

「お米ツアー」は、平成28年10月7日(金)に実施し、青森県内外から3名が参加した。参加者は、田んぼアートを鑑賞し(お米を「見る」)、稲作の歴史を学び(お米を「知る」)、古代米の稲でリースを作り(お米に「触れる」)、古代米の料理を食し(お米を「味わう」)、地元の方々とお米について話す(お米を「語らう」)ことで、お米を五感で体感した。

「農家民泊体験」は、トマト農家において平成28年11月18日(金)から11月19日(土)の1泊2日で実施した。参加学生3名は、トマトのツルを固定する紐の除去、ビニールハウスの支柱の片付け、出荷するトマトのラベル張りの作業を行い、夜は、夕食の準備や受入農家との交流などを行った。



子ども交流企画



お米ツアー



お米ツアー



農家民泊体験

### (4) インターンシップ成果報告会

平成28年12月2日(金)、田舎館村役場においてインターンシップの成果報告会を実施した。成果報告会では、6ヶ月間にわたる活動を振り返り、その後各自が実施した企画を基に、それぞれの提案を田舎館村に伝えた。提案は、田舎館村での活動と村民との交流を通して田舎館のマニアになったことから生まれた「田舎館マニア増加計画」、農業体験や民泊体験から、田舎館村の農業をもっと知ってもらいたいと考えた「民泊の良さを伝える草の根運動」、お米ツアーの経験から、弘前大学生

の間で田舎館観光を流行にするための「田舎館村を流行に」の3つである。

参加学生3名の活動は、インターンシップが地域に貢献するという評価につながり、平成29年度も長期のインターンシップを実施する予定である。



## 8. 下北×台湾 命の絆プロジェクト [弘前・むつブロック]

現在、青森県下北地域では、官民が連携して、台湾を主軸としたインバウンド事業を展開している。インバウンド事業の背景には、古くから台湾との歴史的・文化的つながりが深いという下北地域の優位性を活かした独自の観光振興を実現しようという意欲的な狙いがある。そこでインバウンド事業の促進に資する知見の創出を目指して、学生参加型の調査を実施することとした。本調査によって、インバウンド事業を側面から支援するようなプロジェクトの成立が見込まれた場合には、平成29年度以降の地域志向の教育に組み込むことを視野に入れたものである。

平成28年度の学生参加型調査として、特に注目したのが、「下北と台湾の命の絆」である。昭和40年代、下北の医師不足を解消するため、台湾から多くの医師が来日し、むつ市、大間町、風間浦村、佐井村の診療所などで治療に当たった。こうした下北と台湾の命の絆は、ほかのどの土地にもないかけがえのない資源である。

本プロジェクトは、平成29年2月に開始した。まず下北地域県民局地域支援室室長の中野顕氏をゲストとして招き、台湾を主軸としたインバウンド事業について講演を行った。

講演後に最終的な調査に参加する学生が4名に絞られた。参加学生とともに、調査の枠組みについて検討し、2月11日(土)から2月12日(日)に下北地域へ調査に向かった。学生の協力のもとで、下北地方で当時、台湾人医師と一緒に働いた看護師や治療を受けた患者などの証言を集めた。その結果、下北地域で医療に従事した台湾人医師のリストを作成することができ、活躍の事例が複数収取された。これらの調査の結果は、PR用のチラシなどの形に編纂された。また、こうしたプロセスを通して、学生は下北の歴史や社会について学ぶとともに、地域を舞台とした活動の第一歩を刻むことができた。

平成28年度の取組を踏まえて、本プロジェクトについては、平成29年度から、弘前大学の教養教育の枠組みのなかで、地域志向教育としてプロジェクトを進めていくこととした。



## 【4】 学生の地元就職支援(ブロック事業)

### 1. 学生企画による情報誌「SCENE」【青森・弘前・むつブロック】

学生に青森県内への就職を促し、県内就職率を高めるためには、学生が青森県内の企業についてより深く知る必要がある。しかしながら、全国的な就職情報サイト等に掲載されている情報は都市部の大手企業が中心であり、青森県内で活躍する企業や経営者の情報を深く知ることは依然として困難である。また、掲載されている情報が学生にとって魅力的なものとは限らない。学生の就職活動において、青森県内の企業を選択肢の一つとして考えるようにするためには、青森県内の企業に関する情報、それも学生にとって魅力的かつ有益な情報を発信していく必要がある。

そこで青森COC+推進機構の青森・弘前・むつブロックが連携して、学生自身が青森県内の企業を取材し、学生に向けて紹介する情報誌を制作することとした。情報誌は「学生自らが青森県内の魅力的な企業や人物、地域など、青森県のさまざまな場面＝シーンに出会い、多くの学生に記事として伝える」をコンセプトとし、誌名を「SCENE」(シーン)と命名した。

「SCENE」の中心記事となる「学生による青森県の企業訪問」では、学生が青森県内の企業を実際に訪問し、企業の特徴や職場環境、研修制度、求めている人材像など、学生が就職活動の際に最も参考としたい情報を中心に取材を行い、記事を作成した。また、より学生の興味を引くために、インターンシップやサークル、教員、地域イベントの情報も掲載した。

平成28年度においては7月、11月、3月に計3回発行し、企業11社(うち事業協働機関9社)を掲載した。取材・制作は弘前大学、青森中央学院大学、青森中央短期大学の学生が担当した。

「SCENE」は、事業協働機関に配布されたほか、弘前大学では必修科目にて1年生全員に配布し活用することで、青森県内企業の魅力を広く学生に知らせることを可能とした。



## 2. 合同企業等見学会inむつ 【青森・むつブロック】

平成28年10月6日(木)から10月7日(金)の2日間、「合同企業等見学会inむつ」を開催し、青森中央学院大学の学生8名と弘前大学の学生3名の計11名の学生が、むつ下北地域の企業等を訪問した。

この見学会は、県内の学生及び本県へのUIターン希望者が、むつ下北地域の企業等を訪問し、むつ下北地域の企業等を実際に知ることで、インターンシップや就職の場としての選択肢を拡大することを目的に実施した。

参加学生は、むつ下北地域の企業4社と監査法人、国立研究開発機構の計6つの企業等を訪問し、企業概要について説明を受けながら、実際に現場を訪問して製造現場や執務状況を学生自身の目で確かめた。また、参加学生は、積極的に質問するとともに会社の業務に挑戦するなど、座学では見受けられない生き生きとした活動が見られた。

参加学生からは、「今回の見学会に参加し、実際に企業の運営や施設を見学できたことは、これからの就職活動に大きな影響をもたらしてくれると確信した」、「自分がまだ知らない業種の企業の見学もできたため、貴重な体験ができたと同時に様々な業種の企業があることを知ったことから、就職にあたっての知識の幅が広がった」、「実際に見に行くことの重要性を知ることができたので、今後に生かしていきたい」との感想が寄せられた。

見学会の実施により、青森県内での就職を考える際、選択肢の幅が広がり、本格的な就職活動への準備として参考になるなど、有意義な見学会となった。





### 3. 県内病院と大学の情報交換会 【弘前ブロック】

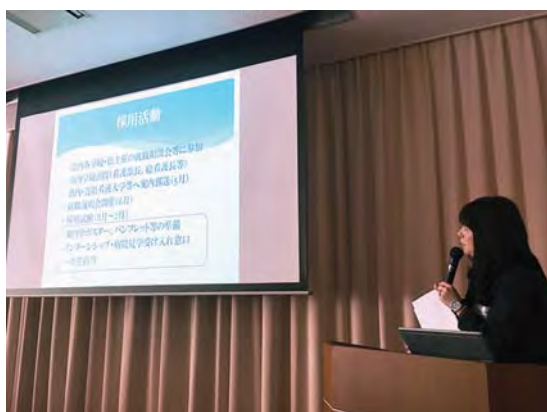
平成29年3月13日(月)、「県内病院と大学の情報交換会 看護学生の県内定着を目指して」を弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホールにて開催し、青森県内の病院・医療関係者及び大学関係者33名(13病院及び5大学)が参加した。

青森COC+推進機構が掲げる「大学生の県内定着」において、特に県外流出が著しい看護学生の県内定着は大きな課題となっている現状を踏まえ、弘前ブロック全構成校が連携し、課題解決に向け取り組んでいる。

その方策の一つとして、参加対象を弘前ブロック内のみならず県内全域に広げ、県内病院で看護学生の採用に関わる職員と、看護専攻を持つ大学で就職に関わる教職員による情報交換会を開催した。

はじめに、弘前市内の3病院(健生病院、弘前市立病院、弘前記念病院)から看護学生の採用状況や採用に関する課題について報告があり、続いて、大学側から看護学生の就職状況や学生からの大学や病院に対する就職活動上における要望について報告があった。

その後、ワークショップ形式で参加者各々が抱える課題を共有し、その課題解決に向けての議論が行われ、「病院インターンシップの早期実施が学生の県内定着につながる事がわかった」、「病院説明会において学生に好印象をもたらす創意工夫がもっと必要だ」といった感想や意見が挙げられた。



#### 4. 中小企業の若者ネットワークづくり 【弘前ブロック】

コラボ弘大1階フリースペースにて実施されている県内在住の社会人&学生の交流会「やわラボ」への参加促進と企業の枠を超えたネットワークづくりを目的として、弘前市及び弘前商工会議所の協力のもと、平成29年1月19日(木)に「中小企業の若者ネットワークづくり」を開催し、若手社会人19名、学生5名が参加した。

参加者の社会人においては、業種が様々であり、青森県居住歴が浅い県外出身者も含まれていたが、交流を通して親睦を深め、ネットワークのさらなる発展につながった。

また、学生からは「ネットワークの存在が弘前市へ就職する魅力の一つになる」といった感想が寄せられた。



#### 5. 県内企業見学ツアー 【弘前ブロック】

県内就職支援の充実を図るため、弘前地区・青森地区企業の見学会を平成28年8月9日(火)から8月10日(水)の2日間にわたり実施した。見学する企業は、幅広い業種から4社を選出し、学生30名が参加した。参加学生からは、「世界に通用する技術を持っている企業が地元にあることを初めて知った」、「実際に見学をしないとわからないことがたくさんあった」等の報告が寄せられ、県内企業に対する学生の理解度が高まった。

見学企業：(株)日本マイクロニクス青森工場／青森県りんごジュース(株)／  
(株)東奥日報社／損保ジャパン日本興亜(株)青森支社





## 6. 県内企業インターンシップ合同説明会 【弘前ブロック】

インターンシップ参加学生の拡大に向け、県内企業を中心にインターンシップ合同説明会を平成28年10月24日(月)と平成29年1月19日(木)の2回にわたり開催し、企業20社、学生92名が参加した。弘前大学の平成28年度のインターンシップ参加学生は164名(平成27年度比73名増)で、うち県内企業等のインターンシップ参加学生は88名(平成27年度比40名増)となった。



## 7. 県内企業対象企業説明会 【弘前ブロック】

平成28年10月24日(月)、県内企業を中心とした合同企業説明会を初めて弘前大学で開催し、企業8社、学生12名の参加があった。この説明会に参加した学生が内定を得るなど、県内就職希望者の支援充実を図った。

また、弘前大学では学生の就職活動を支援するため、個別企業説明会や業界研究会を通年で学内開催しており、県内企業等による実施は73回となった。参加学生は延べ878名で、学内で就職活動ができることから、学業への影響もなく経済的な負担減にもつながっている。



## 8. 県内企業と大学との就職懇談会 【弘前ブロック】

県内企業と大学との就職懇談会を3地区(弘前・青森・八戸)で開催し、弘前地区29社、青森地区19社、八戸地区27社の企業参加を得て、地元企業との連携強化を図った。弘前地区においては、COC+参加校である東北女子大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学の就職担当教職員も参加し、就職率向上やインターンシッププログラムの開発等に関する意見交換を行った。



### 9. あおもり県企業内容説明会 【八戸ブロック】

平成28年10月22日(土)、「あおもり県企業内容説明会」をグランドサンピア八戸で開催し、青森県内企業関係者、学生及び教職員など約150名が参加した。

平成27年度に引き続き、学生に対しては地域の企業を知る説明会として、また、県内企業においては大都市圏における求人活動を知るセミナーとして、さらにはブロック内の3学の教職員と懇談し情報交換の機会とする目的で実施した。さらに、平成28年度より新たに、女性社長による講演会が加わり、大変有意義な企業内容説明会となった。



### 10. 地域企業と学生の共同による企業プロモーション作成ツールの制作 【八戸ブロック】

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」における学生の地元就職支援(ブロック事業)の一環として、地域企業と学生との共同による企業プロモーション作成ツールの制作が行なわれ、コンテスト形式で成果発表会を開催した。

企業プロモーション作成ツールは、企業紹介動画、ポスターや展示方法について、学生のアイデアにより制作された。制作過程において、参加学生は地域企業を学んだ。また、成果発表会がメディアで取り上げられたこともあり、多くの学生の目を地域に向けることができた。



## 11. 女性のキャリア支援セミナー「女性が輝く、みんなが輝く」【むつブロック】

女性の働き方改革のためには、女性が変わる以上に、社会が変わる必要がある。このような観点から、平成29年2月24日(金)、むつ市において、性別の違いに関係なく、一人ひとりが安心して活躍できる社会のあり方について考える講演会「女性が輝く、みんなが輝く～性別にとらわれないこれからの生き方～」を開催し、弘前大学男女共同参画推進室の山下梓助教が講演を行った。

当日の講演会では、女性の生き方や暮らし方に関する様々なデータが紹介されるとともに、性別にとらわれない働き方や暮らし方をキーコンセプトとした地域おこしの事例が報告された。具体的には「過疎ロマン」をテーマに、年齢や性別の垣根を越えたユニークな交流イベントを実施している京都府南山城村や農村の若い女性の生き方に寄り添った支援を自治体単位で実施している福島県飯館村、男女共同参画によるまちづくりを図っている岩手県釜石市の事例などが紹介された。



## 12. 広報誌「Acali」

青森県の「まち・ひと・しごと創生 オールあおもり連携促進事業」の一環として、主に青森県内の自然科学系学生を対象とした県内企業PRを目的に、広報誌「Acali」(アカリ)を発行した。

誌名の「Acali」とは、Aomoriの「A」、仕事あるいは職業として進む道の意味となるCarrierの「Ca」、生き方を意味するLifestyleの「Li」を組み合わせた造語で、青森県内の魅力的な企業や活動する人物、団体を掲載することで、学生自身がこれから進む道や生き方を見出すきっかけとなることへの期待が込められている。

「Acali」は県内企業5社と1自治体を紹介する「企業・団体編」を平成29年1月に、青森県内で活躍する人物6名を紹介する「人物編」を平成29年2月に発行し、学生や事業協働機関に配布した。

また、「Acali」に関連したトークイベントを平成29年2月10日(金)に弘大カフェで開催した。



## 【5】 学生の起業支援(ブロック事業)

### 1. 学生起業セミナー／個別相談会 【青森ブロック】

平成28年10月から平成29年2月にかけて、青森中央学院大学を会場に、学生起業セミナー「あなたも社長！になってみませんか」及び個別相談会を計8回開催し、学生延べ25名が参加した。

セミナーでは、21あおもり産業総合支援センターのインキュベーション・マネージャーである齋藤拓也氏を講師に招き、ビジネスプランの作り方、予算計画、販路開拓、起業準備について学んだ。学生の起業に対する意識の醸成を目的に、地方経済の特色、NPO法人の現状及び基本的な会社経営の手法などを学ぶことにより、参加学生の起業についての問題意識の向上に寄与した。



### 2. 地域おこし協力隊OB / OGによる講演会 【弘前ブロック】

平成28年12月16日(金)と平成29年3月3日(金)の2回にわたり「地域おこし協力隊OB / OGによる講演会」を弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホールにて開催し、学生、大学関係者、自治体関係者など延べ70名(うち学生16名)が参加した。

第1回目は、二戸市観光協会コーディネーターの永井尚子氏による「二戸市地域おこし協力隊の活動紹介と協力隊の『その後』」をテーマに、第2回目は、まよひが企画代表の佐藤恒平氏による「着ぐるみからゲストハウスまで～山形県朝日町の協力隊活動のあゆみ～」をテーマに講演が行われた。

両者に共通する点として「地域おこし協力隊での経験」をもとに、地域資源を活用しながら地域に密着したスモールビジネスの構築が挙げられる。

参加者にとっては、そのノウハウを学ぶ機会となり、熱心に耳を傾けている様子が見られた。





### 3. 学生ゲストスピーカー「“青森でパンの袋を留める”誕生秘話」【弘前ブロック】

商品開発に取り組んでいる学生をロールモデルとして発信し、挑戦する連鎖を生むことを目的として、平成28年7月19日(火)、学生ゲストスピーカー企画「“青森でパンの袋を留める”誕生秘話」を弘前市内にて開催し、学生13名のほか、学生の取組に関心を寄せる自治体関係者が参加した。

当日は、学生ゲストスピーカーとして“青森でパンの袋を留める”の発案者である弘前大学教育学部3年の鈴木海人さんから「青森県の形の資源化」に至るまでの経緯や、地元企業との連携、SNSによる情報発信や仲間の存在の重要性について報告があった。

参加学生からは、数多くの質問が飛び交い、学生同士が刺激し合い、お互いを高め合う機会となった。



### 4. 弘前大学起業家塾【弘前ブロック】

起業への意識醸成を図り、起業(VB)の促進、研究シーズ等を活用した起業家の育成及びイノベーションの創出を目的とした「弘前大学起業家塾」を計6回開催し、学生、研究者、企業経営者延べ234名が参加した。

第1回目から第3回目までは外部講師を招聘し講演及びワークショップを開催し、第4回目から第5回目まではグループを組んでワークショップを開催した。

最終回となる第6回目は、書類選考を通過した6グループによるビジネスコンテストを開催し最優秀賞1グループ、優秀賞を2グループ選出した。



## 5. イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016 【八戸ブロック】

平成28年12月11日(日)、「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016」を八戸パークホテルで開催し、学生及び教職員など約70名が参加した。

本コンテストは、COC+事業において、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を目標に掲げていることから、学生からのアイデアを来場者や企業にショートプレゼンテーションやポスターで発表をするという初めての試みとして実施され、「地域の活性化を目的としたもの」をテーマとして、八戸工業大学、八戸学院大学、八戸高専の3校から11件の応募があった。来場者や企業関係者から学生の発表に対して活発な質問や意見交換が行われ、審査員による審査と来場者の投票により各賞が決定された。



## 6. 下北での起業プロセス実証事業 【むつブロック】

青森県の「まち・ひと・しごと創生 オールあおもり連携促進事業」の一環として、若年層の域外流出が続く下北地域をフィールドに、地域社会に貢献する「社会起業」の考え方のもと、域内の企業・団体と協力しながら、学生による起業プロセスの実証を行う「大学生による下北地域での起業プロセス実証事業」を、平成28年9月から平成29年2月の約5ヶ月間で実施し、弘前大学の学生7名が参加した。

参加学生は、下北郡東通村で地域活性化を目指す団体「東通★東風塾」と連携してワークショップやイベント企画、商品の開発・販売などを行った。本事業における様々な活動を通して、学生の社会起業に対する意識や社会人基礎力を育成することができた。



## 【6】 雇用創出連携プロジェクト

### 1. アグリ関連プロジェクト

#### (1) 青森県産農産物を主体とした高付加価値化等に関する産業化

アグリ関連プロジェクトは、青森県産農産物の高付加価値化に焦点を絞り、新規商品の開発促進を目的としている。平成28年度は、高付加価値化のための農産物の機能性分析や分析方法の確立、及び商品の加工方法の確立に取り組んだ。

平成28年4月から10月にかけては、プロジェクトの方向性を検討し、対象となる企業や団体等の選定を行った。対象となったのは、以下に示されている企業4社、NPO法人1団体、及び研究機関2組織の計7機関である。7機関とは共同研究契約を締結し、平成28年10月から平成29年3月までの期間で開発を進めた。

#### ■ 実施事業一覧

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
(地独)青森県産業技術センター弘前地域研究所	高橋 匡	食品素材開発部	加藤 陽治	弘前大学 教育学部
研究課題名	カシス果実および加工品中に含まれるポリフェノールおよびアントシアニンの定量法の確立			
<p>目標：カシス果実及びそれを食品素材化した際のポリフェノール及びアントシアニンの定量分析法を確立し、それらに含まれるポリフェノール量を担保することで、地域のカシス産業発展に寄与する。</p> <p>成果：カシスに含まれている主要ポリフェノール（アントシアニン）に関して、定量分析の方法を確立することができた。確立した分析方法により、カシス生産者やカシス加工業者等のニーズに応えることが可能となる。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
八戸工業高等専門学校	山本 歩	マテリアル・バイオ工学コース	内山 大史	弘前大学 地域社会研究科
研究課題名	青森県産ナガイモの機能性解析			
<p>目標：青森県の特産品であるナガイモの機能性解析を行うことでナガイモの高付加価値化および高機能化を図る。</p> <p>成果：ナガイモエキスに含まれている成分濃度は、水分含量に依存することが明らかとなった。また、3種類のナガイモ（ながいも、ネバリスター、自然薯）の機能性を比較した結果、ネバリスターは高い消化酵素活性を有していることが明らかとなった。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
ミリオン株式会社	柴田 浩一朗	社長	殿内 暁夫	弘前大学 農学生命科学部
研究課題名	白神山地から分離した菌類の有効利用に関する研究			
<p>目標：子実体形成性のキノコ（担子菌）を機能性食品・添加物として活用するための、キノコ（担子菌）の人工栽培条件の検討と子実体の機能性分析の解析を行う。</p> <p>成果：人工栽培の予備試験として人工培地での生育条件の検討を行い、簡易な培地（PDA）で増殖可能であることが確認された。機能性解析として抗生物増殖活性の解析を行った結果、7種類より抗生物増殖活性が見出され、そのうち2種類では活性が極めて強いことが明らかとなった。</p>				



機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
大周 弘前倉庫株式会社	大水 達也	取締役社長	加藤 陽治	弘前大学 教育学部
<b>研究課題名</b>	青森県におけるカシス産地化研究			
<p>目標：青森県内でのカシス栽培の拡大と高付加価値化食品の製造を可能にするため、積雪地及び機械化に適し、かつ機能性成分が豊富な品種の選定、及び高付加価値化につながる新規機能成分の解析を行う。</p> <p>成果：栽培予定圃場の環境調査から2箇所を予定圃場地とした。12のカシス品種を用いた栽培試験の準備を進め、収穫の機械化に向けた各種の課題を整理した。3品種を用いた機能成分の分析によりアントシアニンの分析方法が確立した。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
青森県りんごジュース株式会社	倉内 佑	品質管理部 品質保証課	前田 智雄	弘前大学 農学生命科学部
<b>研究課題名</b>	機能性ニンジン品種を用いた高付加価値ジュースの開発			
<p>目標：高機能性ニンジン品種を原料とした新規性の高いニンジンジュース開発のため、以下の3点を明らかにする。また、それらは生産に向けたライン設計に利用される。明らかにするのは、①加工処理がニンジン中の機能性成分量と呈味性に及ぼす影響、②越冬貯蔵によりニンジンの風味が良化する事の根拠、③越冬貯蔵ニンジンジュースの風味の優位性に関する知見、である。</p> <p>成果：冷凍貯蔵と雪中貯蔵の原料で製造した濃縮汁の呈味比較や成分比較、及び雪中栽培ニンジンの成分分析と呈味評価は継続中である。また、香気分析は分析手法の情報収集を実施した。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
(特非)循環型社会創造ネットワーク	佐々木 秀智	-	桐原慎二 久保田健	弘前大学 北日本新エネルギー研究所
<b>研究課題名</b>	脱カドミウム処理イカゴロの乾燥とトラフグ飼料への利用に関する研究			
<p>目標：大量廃棄されるイカの中腸腺（イカゴロ）をトラフグ養殖の飼料として活用するため、①脱カドミウム処理済イカゴロエキスの乾燥処理の手法、②イカゴロのトラフグへの飼料価値（摂取量、生残と成長）を明らかにする。</p> <p>成果：①乾燥温度や時間等、飼料として調整可能となる効率的な乾燥手法を開発できた。②エキスには明瞭な飼料価値が認められなかったが、添加物の混合により価値を高められることが明らかになった。エキスは稚魚の摂餌を誘引または刺激することが示唆された。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
丸大堀内株式会社	外崎 健児	業務推進部	吉仲 怜	弘前大学 農学生命科学部
<b>研究課題名</b>	弘前大学育成「紅の夢」を活用した新規加工品の試作・開発			
<p>目標：紅の夢の特性を踏まえた加工用途の方策を検討するため、①製菓用一次加工原料の検討、②製菓試作品の検討、③製菓試作品のアンケート評価、を行う。</p> <p>成果：①原料の開発には、加工時期や加工程度、歩留まり等において、技術ノウハウの更なる積み上げが必要になることが明らかになった。②既存商品をベースにした加工では、紅の夢の特徴を活かし切れないことが明らかとなった。③アンケート64件から試作品に対する反応を収集した。</p>				



カシスの苗木



紅の夢

## (2) 研究会間の連携

本事業は、組織間の連携を強化することで、アグリ関連産業の振興に寄与することを目的に、「ひろさき産学官連携フォーラム(以下、フォーラム)」及び「青い森の食材研究会(以下、研究会)」への支援を行った。

フォーラムは、企業・大学・公的機関等の共同研究の推進を目的とし、企業84社、大学関係者や個人事業主等105名が会員となっている。研究会は、農林水産物に関する機能性情報の普及と活用及び関連産業の振興等を目的とし、大学や研究機関から12名が参加している。

平成28年度は、地域一体のさらなる取組を進めるため、両組織の合併を行った。フォーラムのなかに研究会を位置づけ、また研究会のなかに、機能性情報の発信や仕組みづくりを担う「研究情報発信部会」、県産農産物を活用した商品開発を担う「研究開発実施部会」を設置した。合併と部会の設置により、域内支援団体、関係者の一元化と集中化を図った。



## 2. ライフ関連プロジェクト

### (1) 八戸市立市民病院と共同での取組

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」における雇用創出連携プロジェクト(ライフ関連プロジェクト)の一環として、八戸高専の学生が八戸市立市民病院と共同で「点滴スタンドの安全性と利便性の向上」に取り組んだ。学生は現場のニーズから商品開発へとつながる課題に取り組むことにより、地域理解が深まった。

平成28年11月23日(水)開催の八戸高専COCフォーラムでは、学生によるプロジェクトの進捗状況の報告や成果発表が行われた。フォーラムの参加者からの活発な質問や意見交換が行われ、今後のプロジェクトの参考となるきっかけとなった。

### (2) 医工連携セミナー・ライブイノベーションフォーラム

平成29年2月28日(火)、弘前大学理工学研究科附属医用システム創造フロンティアと(公財)八戸地域高度技術振興センターとの共催により、「医工連携セミナー(医用機器開発シーズ)～HCアカデミー～」を弘前大学八戸サテライトで開催し、12機関計23名が参加した。

セミナーでは、基調講演や医用機器開発についてのシーズの説明、COC+事業のライフ事業が紹介され、活発な質問や意見交換が展開され、大変有意義なものになった。





### 3. グリーン関連プロジェクト

#### (1) 企業と連携した見学会や実習

地域に立地するエネルギー・設備系大企業と連携して、原子力・電力・再生可能エネルギーなどの分野について、見学会や実習を実施し、学生の地元企業への理解を深め、さらに企業が希望する研究開発・保守分野の技術者の育成を進めている。こうした活動により、学生のエネルギー・設備系企業や地元への就職が進んでいる。

特に、八戸から下北にかけての北東青森地区は大規模エネルギー施設の集積地であり、COC+の事業を通じて、これまでの企業との連携をさらに深めている。原子力分野においては、地域企業への学生の認識の充実を図り、地域で日本に貢献できるメリット、さらには世界を視野に入れた職業活動の可能性があることを複数の機会を通じて周知されている。

#### ■ 平成28年度卒業生に対する原子力関連企業とのマッチングを図る努力の例

実施項目	実施内容および実施時期
1. 事前学習 (インターンシップ)	実施内容：インターンシップをより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：8月21日 参加者数：7人
2. インターンシップ	実施内容：東北電力東通発電所、青森日揮プラントックへ専門科目教育の効果を高めると同時に将来的な職業選択に向けて経験を積む目的とした、インターンシップを行った。 実施時期：8月24日～28日 参加者数：東北電力東通発電所4人 青森日揮プラントック4人
3. 事前学習 (夏期研修)	実施内容：夏期研修内容をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：8月24日 参加者数：37人
4. 夏期研修	実施内容：東通村、むつ市、大間町において、現場見学・現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：8月25日～27日 参加者数：37人
5. 事前学習 (秋期研修)	実施内容：秋期研修内容をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：10月16日 参加者数：27人
6. 秋期研修①	実施内容：六ヶ所村において、現場見学・現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：10月27日～29日 参加者数：35人
7. 秋期研修②	実施内容：六ヶ所村において、現場見学・現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 11日は、青森原燃テクノロジーセンターの「原子燃料サイクルと六ヶ所再処理工場建設開始までの道のり」講座を受講した。 実施時期：11月11日～13日 参加者数：14人
8. 事前学習 (放射線研修)	実施内容：八戸工業大学で、放射線研修をより効果的にする目的で、事前学習を行った。 実施時期：12月3日 参加者数：6人
9. 放射線研修 (管理区域)	実施内容：環境科学技術研究所で、放射能や放射線への理解を深めるとともに放射線の性質及び測定器の特性の理解を目的とした研修を行った。 実施時期：12月16日～17日 参加者数：6人



夏期研修の様子(原子力関連企業での技術者との交流)



夏期研修の様子(むつ科学技術館にて)

## (2) 技術者育成に向けた講演会の開催

八戸工業大学が実施している「ものづくり次世代型技術者養成事業」のフォローアップを行った。

既受講者に対して、連絡事務所兼ソフトウェア開発場所や機器の提供など、業容拡大のための支援を実施した。また、あおもり元気企業チャレンジ助成事業を利用した技術支援や、八戸市内の中小事業者への技術支援を実施した。さらに、福井県(エネルギー)と北海道(寒冷地)のCOC+拠点校(福井大学、室蘭工業大学)を訪問し、他県における学生の地元定着の状況と支援策について調査を行った。また、フランス・ベルギーの技術者を招き、原子力を中心としたエネルギー先進国の事例について講演会を実施し、先進事例を調査するとともに、学生への啓発を行った。

### 1. 福島事故を受けた原子力の安全性について

開催日：平成28年11月14日(月)

場 所：八戸工業大学 教養棟旧館211教室

講 師：江尻 寿延氏(日本原子力産業協会 地域交流部)

### 2. 原子力発電の現状について

開催日：平成29年1月16日(月)

場 所：八戸工業大学 教養棟旧館211教室

講 師：小笠原 和徳氏(東北電力東通原子力発電所 副所長)

### 3. 核燃料再処理の現状と原子力を取り巻く日仏の環境について

開催日：平成29年1月18日(水)

場 所：八戸工業大学 教養棟旧館211教室

講 師：ミシェル・グラモン氏(アレバ・ジャパン 技術専門職、課長)

### 4. 核燃料廃棄物長期保存に向けた研究の現状について

開催日：平成29年3月2日(木)

場 所：八戸市ユートリー会議室

講 師：クリストフ・ブルゲマン氏(ベルギー原子力研究所 廃棄物処理部部長)



フランス国アレバ社のミシェル・グラモン博士の講演



ベルギー原子力研究所のクリストフ・ブルゲマン氏の講演

### (3) シンポジウム「地域エネルギーの未来を考える」

弘前大学理工学研究科と青森COC+推進機構は、平成28年10月28日(金)、シンポジウム「地域エネルギーの未来を考える」を、アートホテル弘前シティで開催し、教職員、学生、自治体関係者、企業関係者など約200名が参加した。

本シンポジウムは平成28年度に弘前大学理工学部自然エネルギー学科が新設されたことを記念して開催され、佐藤敬弘前大学長の挨拶、三村申吾青森県知事の代理として柏木司青森県中南地域県民局長の挨拶、吉澤篤弘前大学理事(企画担当)による青森COC+事業説明の後、日本エネルギー学会会長の山地憲治氏による基調講演や、青森県・弘前市・平川市のエネルギーに関する取組報告、弘前大学理工学部自然エネルギー学科長の阿布里提教授による講演が行われた。



吉澤篤 弘前大学理事(企画担当)による青森COC+事業説明



山地憲治 日本エネルギー学会会長による基調講演



大学・自治体・企業の関係者が多数参加



阿布里提 弘前大学理工学部自然エネルギー学科長による講演

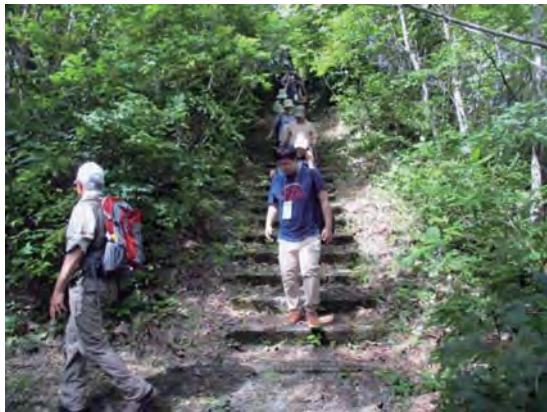


## 4. ツーリズム関連プロジェクト

### (1) 「浅虫温泉・海山クアの道」でのドイツ式健康ウォーキングの実施

ヘルスツーリズムのビジネス化に向けた取組の一環として、「浅虫温泉海山クア(健康)の道」でのドイツ式健康ウォーキングを実施した。

浅虫森林公園からサンセットビーチエリアのコースを、心拍測定やヨガ等を取り入れながら歩くもので、平成28年度においては、5月、6月、7月、9月、10月の日曜日に計10回実施した。参加人数は延べ264名(事業協働機関である青森銀行行員向けのウォーキング参加者を含む)で、参加者は平成27年度より103名増加した。



### (2) 学生ガイドサポーター養成研修会・実地研修会

ヘルスツーリズム事業の一環として行っているドイツ式健康ウォーキングを支える学生サポーターを養成するため、平成28年7月22日(金)、青森中央学院大学にて「ドイツ式健康ウォーキング・ガイドサポーター養成研修会」を開催した。日本クアオルト研究機構の事務局長で日本クアオルト研究所所長である芸術工学博士の小関信行氏と、あおもりクア(健康)ガイド協会会長の野宮正宣氏を講師に招き、学生、教職員、一般の計48名が参加した。

また、青森中央学院大学の学生と教員11名が平成28年9月7日(水)から1泊2日でクアオルトウォーキングの先進地である山形県上山市を訪れ、実地研修会を行った。上山市クアオルト推進室長の佐々木慶氏と保健師の高橋ちぐみ氏、学生ガイドサポーター養成研修会でも講師を務めた小関信行氏を講師に招き、上山市の取組について説明を受けた後、2日間にわたりウォーキング体験を実施し、コース設定の基準や、さまざまな仕掛けや仕組み等を学んだ。





### (3) ドイツ式健康ウォーキング「浅虫温泉海山クア(健康)の道」ガイドマップ(コース編)の作成

ドイツ式健康ウォーキングを推進するため、あおもりクア(健康)ガイド協会(会長：野宮正宣)の制作協力により、「浅虫温泉海山クア(健康)の道」を県内外へ周知するためのガイドマップを作成した。

今後は、このマップを「浅虫温泉海山クア(健康)の道」ドイツ式健康ウォーキング参加者やウォーキングに興味がある者に配布し、浅虫温泉地域におけるドイツ式健康ウォーキングを推進するためのツールとして活用する。



### (4) サイクルツーリズムフォーラム・セミナー

雇用創出連携プロジェクト(ツーリズム)の一環として、平成28年11月2日(水)、ホテルサンルート五所川原にて、サイクルツーリズムを推進するためのフォーラムを開催し、自治体職員や旅行業、旅館業、サイクリング協会関係者など約60名が参加した。

フォーラムでは、滋賀県守山市の政策調整部次長兼地方創生推進室長の山形英幸氏が講演を行い、地方創生総合戦略の柱の一つとして掲げている「自転車を軸とした観光振興～ビワイチ」の取組について紹介した。続いてパネルディスカッションが行われ、山形氏をはじめ、株式会社ウイルステージ代表取締役の大谷洋士氏と営業統括部長の京極卓也氏、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員(地域づくりスペシャリスト)の藤原誠二氏、五所川原市サイクリング協会会長の福士寛美氏がパネリストをつとめ、「サイクリングとサステイナブルな地域の振興」について意見が交わされた。

また、平成29年3月18日(土)に、サイクリングガイド養成に向けたセミナーを青森市の新町キューブにて開催し、青森県サイクルツーリズム推進協議会関係者や街歩きガイド、自治体関係者、一般の計23名が参加した。日本サイクリング協会認定のサイクリングガイドである江利山元気氏と花田カズオ氏を講師に招き、青森のサイクリングガイド養成に向けてサイクリングガイドの現状と観光振興についての講演を行った。



## (5) ワーキンググループの開催

雇用創出連携プロジェクト「ツーリズム(観光)関連産業」を全県的に推進するために、プロジェクトマネージャーを座長として、青森・弘前・八戸・むつブロックのリーダー校をメンバーとするワーキンググループを構成し、全県的に推進するための検討を行った。

### 第1回ツーリズム関連産業ワーキンググループ会議

日時： 平成28年12月14日(水) 12:00～13:00

場所： 青森中央学院大学 2号館4階 ミーティングルーム

- 議事： 1. ツーリズム関連産業を全県的取り組みとすることについて  
2. その他(意見交換)

### 第2回ツーリズム関連産業ワーキンググループ会議

日時： 平成29年3月14日(火) 15:30～17:00

場所： 青森国際ホテル 6階 牡丹の間

- 議事： 1. ツーリズム関連産業を全県的取り組みとすることについて  
※青森ブロックから青森中央学院大学の「ツーリズム(観光)関連事業」の取組状況について説明した。  
2. その他(意見交換)



## 【7】 FD・SDの実施

### 1. 青森中央学院大学・青森中央短期大学公開FD・SD研修会

平成28年11月25日(金)、青森ブロックのリーダー校である青森中央学院大学と青森中央短期大学が公開FD・SD研修会を開催し、青森市内の他大学の教職員を含む51名が参加した。研修会では、国内で最も早くから大学間連携や大学と地域との連携事業に取り組んでいる、大学コンソーシアム京都の桂良彦理事・事務局長の講演が行われ、大学コンソーシアム京都の沿革や運営方法等の概要をはじめ、コンソーシアムで取り組んでいるインターンシップや単位互換、京都世界遺産PBL科目、高大連携・接続、地域連携等について説明があった後、地域との連携を進める上での成功事例や課題などについて情報交換を行った。



### 2. 平成28年度弘前大学全学FD

平成29年3月8日(水)、弘前大学総合教育棟206講義室において、「平成28年度弘前大学全学FD」を開催した。

本FDは「弘前大学の三つの方針」等について共通理解を深め意識の統一を図ること及び新たなFDプログラムによる教育改善を提言し、教育改革の先導に資することを目的としたもので、今回はリーダーFDとしての側面から各学部長及び研究科長、教育関係の各委員等、教育の企画・立案に関わる教員や幹部職員を対象に行った。

はじめに、伊藤成治教育担当理事から「三つの方針」の今後の展望について講演があり、次に西村君平COC推進室助教からスタディスキル導入科目に関する分析結果やベンチマーク等の報告があった。引き続き、参加者から教員向けレクチャーの実施や本町地区教員向けFDの開催についての希望、ローカル科目の充実に関する方策等の意見交換があり、有意義な時間となった。



### 3. 八戸高専FD

平成28年4月20日(水)、八戸高専の教職員にCOC/COC+事業の理解を深めてもらう目的で「八戸高専FD」を八戸高専の大会議室で開催し、教職員約70名が参加した。今回のFDでは、COC/COC+事業の概要、平成28年度に実施されるCOC/COC+事業についての説明が行われ、教職員に対してCOC/COC+事業に対する意識付けがなされた大変有意義なFDとなった。

また、平成29年3月には八戸高専の広報誌「高専だより」においてCOC/COC+事業の事業報告を掲載した。教職員のみならず、学生及びその保護者にもCOC/COC+事業を周知することで、認知度向上に寄与した。



# 4. シンポジウム

---

Symposium



## 【1】 平成28年度COC+シンポジウム

平成29年3月9日(木)、「平成28年度COC+シンポジウム」をアートホテル弘前シティにて開催した。

今回のシンポジウムは、主に県内の企業を対象とした「学生が企業を変える！企業力強化に向けた採用戦略」をテーマとして開催し、青森県内の企業・団体・NPO関係者、大学・教育機関関係者、自治体関係者など126名が参加した。

佐藤敬機構長(弘前大学長)による開会挨拶の後、第一部では、吉澤篤弘前大学理事(企画担当)・副学長による説明「COC+の取り組み」、NPO法人ETIC.ローカルイノベーション事業部マネージャーの伊藤淳司氏による講演「社長の夢をかなえた学生生活術」、株式会社オフィス55代表取締役の高木茂氏による講演「採用難時代を勝ち抜く企業」が行われた。

続いて第二部では、参加者が「インターンシップによる企業力アップ」と「情報発信強化による採用力アップ」の2つの分科会に分かれ、テーマごとに活発な議論が行われた。

分科会終了後、塩谷未知青森中央学院大学教授(キャリア支援センター長)と小磯重隆弘前大学准教授(教育推進機構キャリアセンター副センター長)から、各分科会で議論された内容についての報告があり、最後に花田勝美副機構長(青森中央学院大学長)による閉会挨拶が行われた。



佐藤敬 青森COC+推進機構長による開会挨拶



吉澤篤 弘前大学理事(企画担当)による取組説明



企業・団体・NPO、大学、自治体関係者が多数参加



NPO法人ETIC. 伊藤淳司氏による講演



株式会社オフィス55 高木茂氏による講演



分科会 「インターンシップによる企業力アップ」



分科会 「情報発信強化による採用力アップ」



塩谷未知 青森中央学院大学教授による分科会報告



小磯重隆 弘前大学准教授による分科会報告



花田勝美 青森COC+推進機構副機構長による閉会挨拶



会場フロアではこれまでの取組をポスターで紹介





平成28年度 COC+シンポジウム

## 「学生が企業を変える！企業力強化に向けた採用戦略」

日時：平成29年3月9日（木）13:00～16:00

場所：アートホテル弘前シティ 3階

## プログラム

## 【第一部】

- 13:00～13:05 開会挨拶  
青森COC+推進機構長(弘前大学長) 佐藤 敬
- 13:05～13:15 COC+の取り組み  
弘前大学 理事(企画担当)・副学長 吉澤 篤
- 13:15～13:40 講演「社長の夢をかなえた学生生活用術」  
NPO法人ETIC. ローカルイノベーション事業部 マネージャー 伊藤 淳司
- 13:40～14:05 講演「採用難時代を勝ち抜く企業」  
株式会社オフィス55 代表取締役 高木 茂
- 14:05～14:25 休憩・ポスター展示（分科会会場へ移動）

## 【第二部】

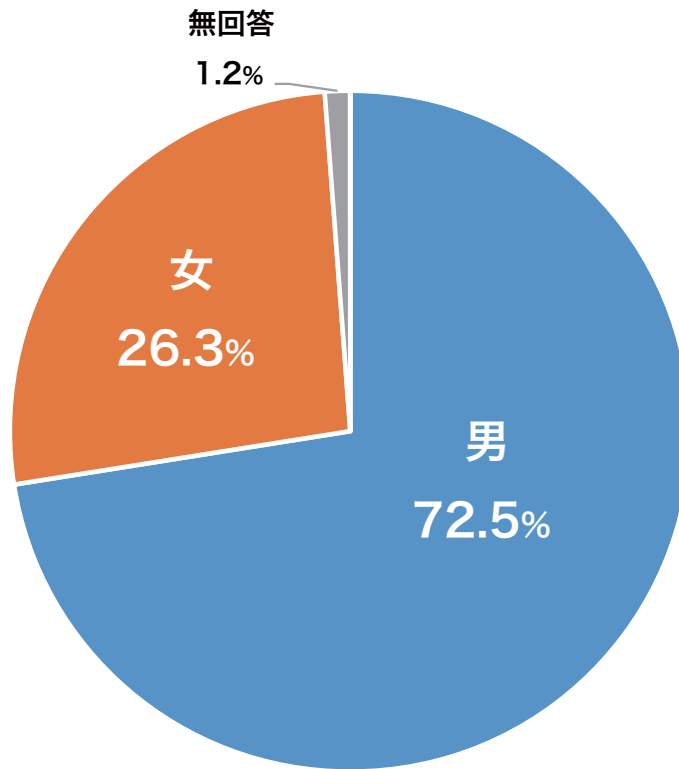
- 14:25～15:25 分科会「企業力・採用力の向上を目指して」  
第1会場「インターンシップによる企業力アップ」  
■青森県の企業2社による話題提供  
株式会社木村食品工業 執行役員 経営企画室長 辻脇 悟志  
弘前航空電子株式会社 総務部主任 伊藤 学  
■会場の企業からの意見出し～まとめ  
【司会】 青森中央学院大学 キャリア支援センター長 塩谷 未知  
【コメンテーター】 NPO法人ETIC. ローカルイノベーション事業部 マネージャー 伊藤 淳司
- 第2会場「情報発信強化による採用力アップ」  
■青森県の企業2社による話題提供  
マルマンコンピュータサービス株式会社 常務取締役 工藤 寿彦  
株式会社ユニバース 人事教育部 人事グループ主任 箱崎 真也  
■会場の企業からの意見出し～まとめ  
【司会】 弘前大学 教育推進機構キャリアセンター 副センター長 小磯 重隆  
【コメンテーター】 株式会社オフィス55 代表取締役 高木 茂
- 15:25～15:35 休憩（全体報告会場へ移動）
- 15:35～15:55 分科会全体報告
- 15:55～16:00 閉会挨拶  
青森COC+推進機構 副機構長(青森中央学院大学長) 花田 勝美
- 16:00 閉会

## 【2】 シンポジウム参加者アンケート

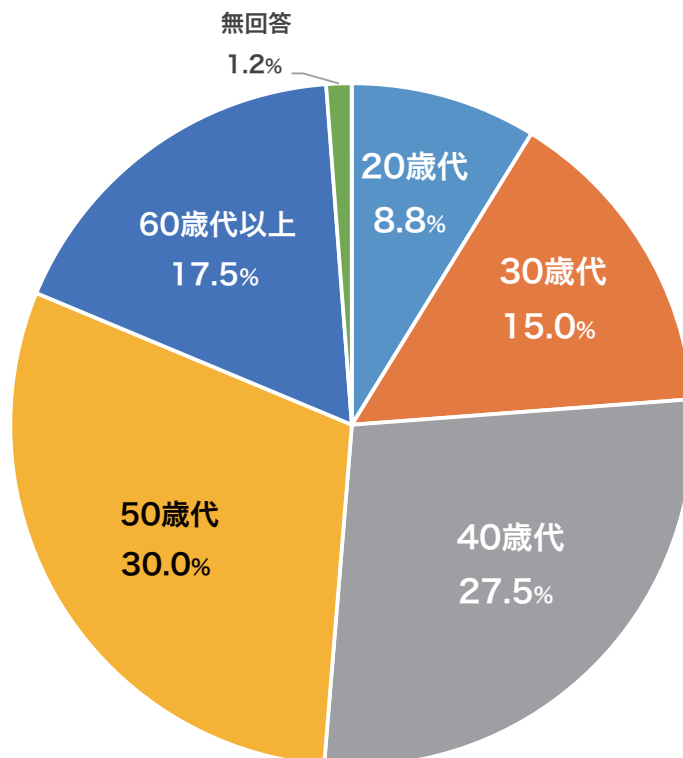
回答者数 80名 (全参加者の63.5%)

### 1. 参加者自身について

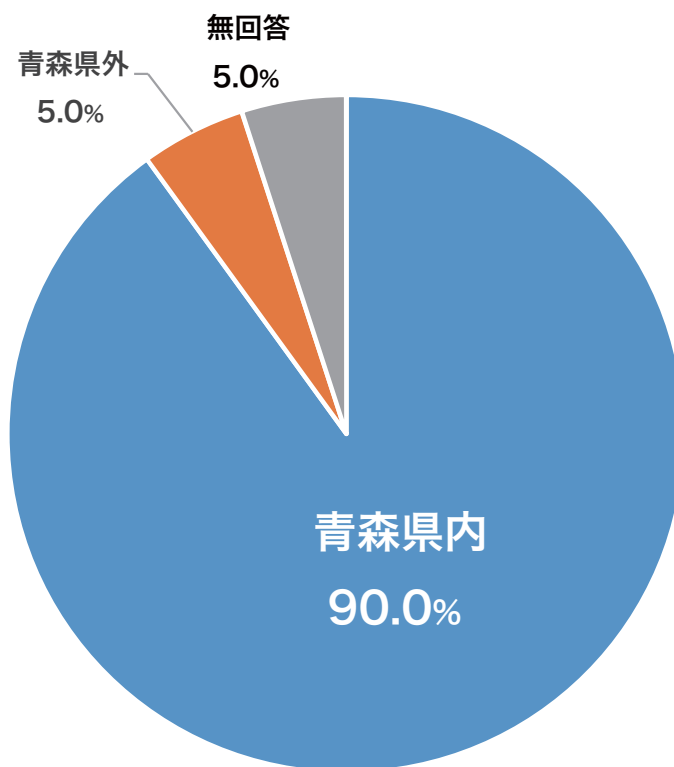
#### ■性別



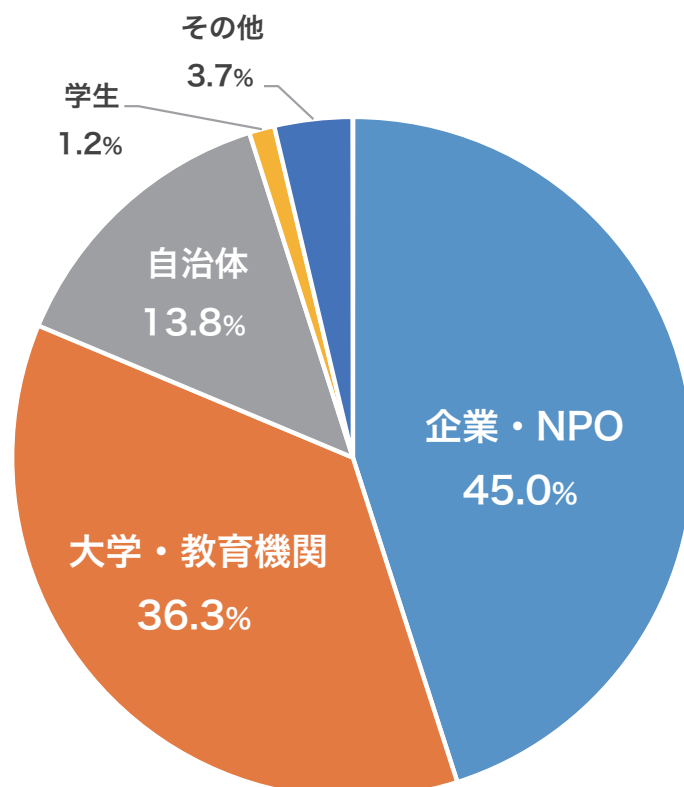
#### ■年齢



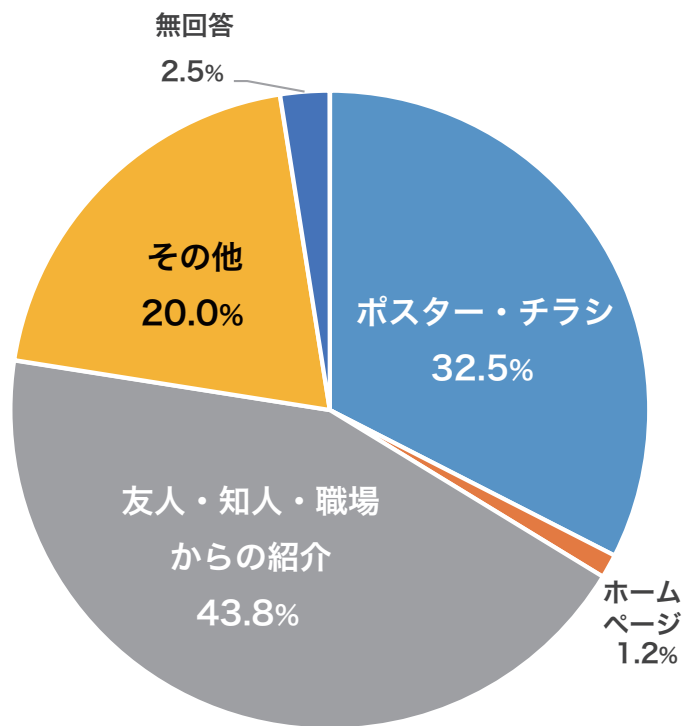
## ■住所



## ■職業

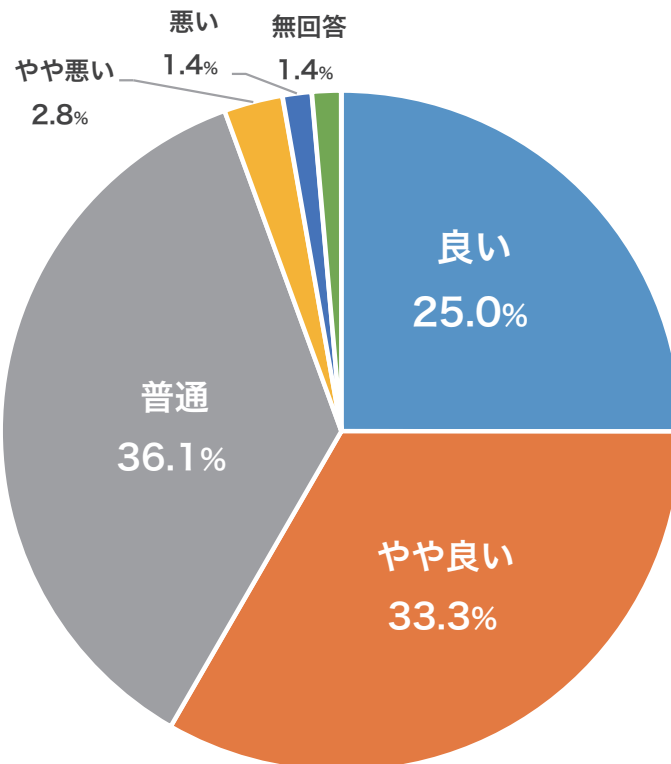


## 2. シンポジウムの開催を何で知りましたか？



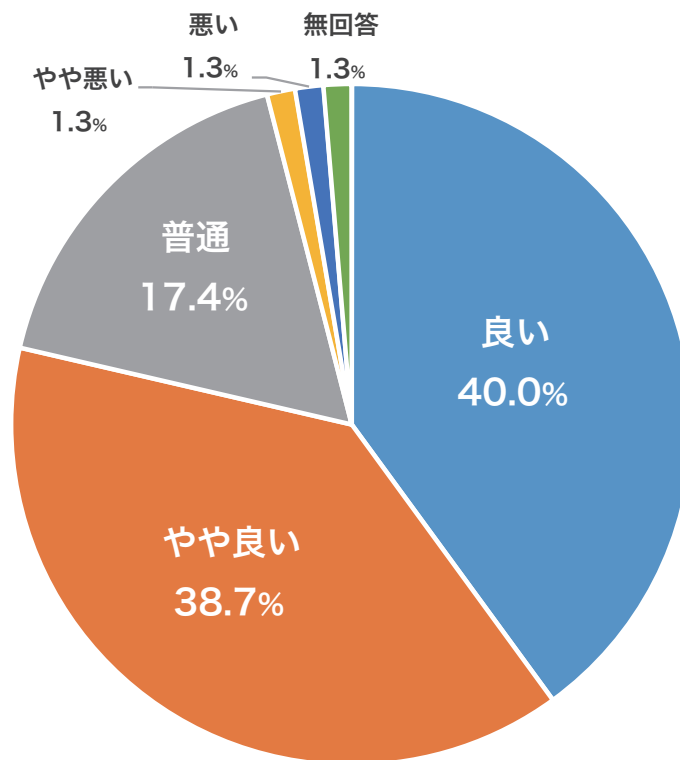
## 3. 参加した項目についての感想

■ COC+の取り組み

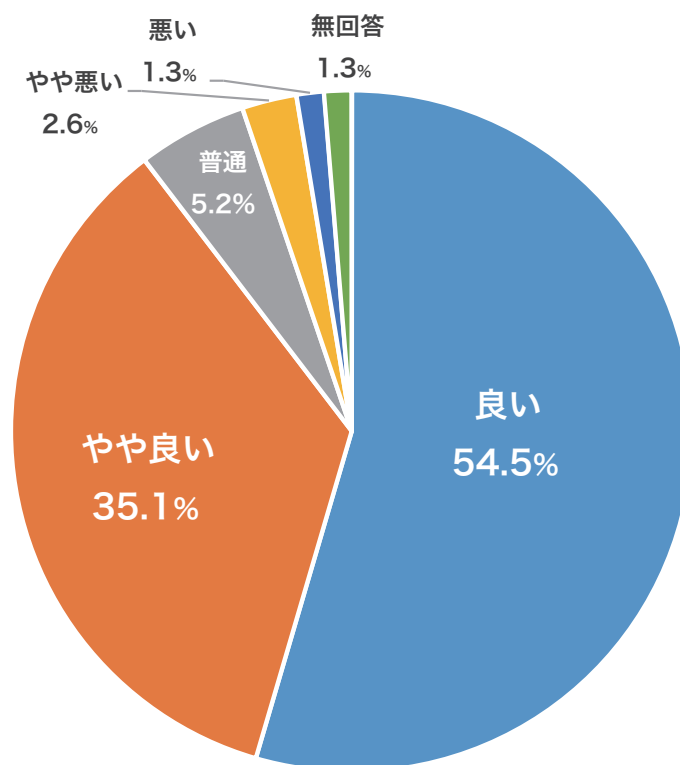




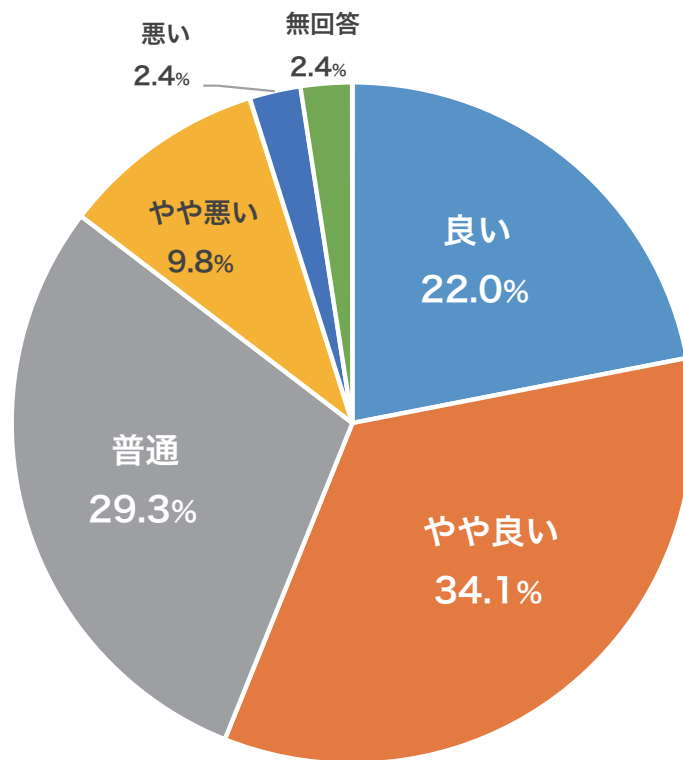
## ■ 講演(社長の夢をかなえた学生生活用術)



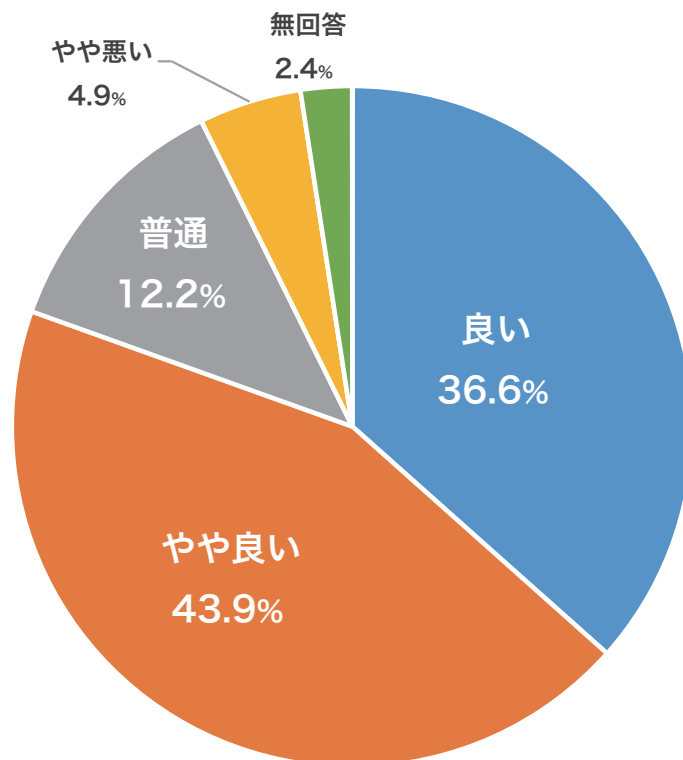
## ■ 講演(採用難時代を勝ち抜く企業)



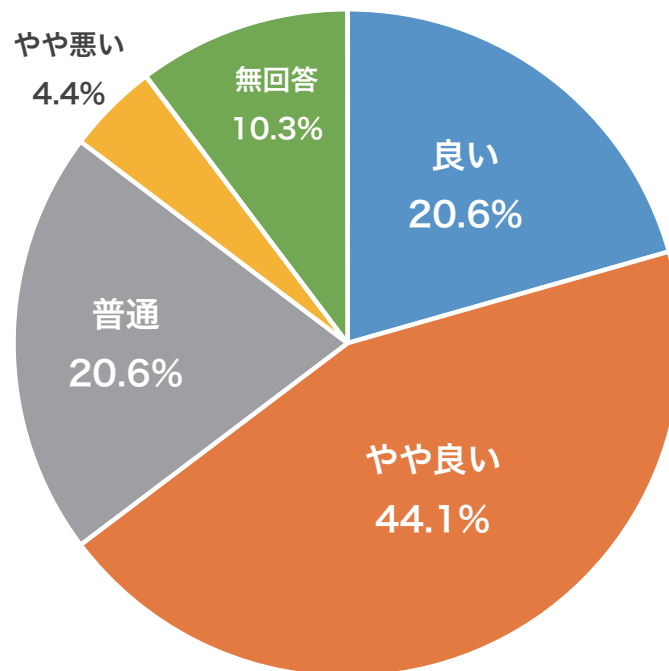
■分科会1 (インターンシップ)



■分科会2 (情報発信強化)



## ■全体報告



## 4. これからのCOC+事業に期待すること（自由回答）

(抜粋)

- 地域貢献をどのように果たしていくのかの具体的方策を研究・実践してほしい。
- 悪い風潮(うわさ)に対してどのようにアプローチするか、情報の伝達が早い(事実とは違う内容) マイナスイメージの払拭方法。
- 県内の中小企業と学生のマッチング。(リクナビやマイナビを利用しない形で)
- 中小企業発展につながる人材確保や育成、供給、技術開発、新しいアイデアなど。また、協力によって、社員のモチベーションも期待も高まるのでは？
- COC+事業が終了しても、青森県内の就職や若者の地元への就職に関する取組の継続を期待しています。
- 地域の課題やニーズを、もっとひろいあげることに力を注いではどうだろうと思う。雇用をつくり出すことが必要だと思う。
- 目標達成、そのために地元企業の協力を。
- 卒業生の地域定着率の向上。地域企業との連携。
- 県内学生の就職への意識・考え方を育てる事。
- 県内大学が積極的にインターンシップに取り組み、県内就職が促進されるようにしてほしい。各大学がインターンシップに取り組んでいる姿がみえない。
- 中小企業における採用の具体的提案と周知。
- 雇用創出に向けた、地域全体の環境整備。
- 青森で働きたい人(学生)と、青森の企業で学生を採用したい会社とのマッチングに力を入れていただきたい。インターネットで、学生と企業の両方の情報を公開し、どちらからも連絡を取れるようにしてほしい。(学生が了承すれば・・・)
- COC+事業の企業・県民を巻き込んだムーブメントをつくる。



文部科学省

地(知)の拠点



# 5 . 外部評価

---

External Evaluation



## 【1】 外部評価

### 1. 外部評価委員会の開催

平成28年11月28日(月)、「弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会」を弘前大学創立50周年記念会館にて開催した。

本委員会は、学識経験者、行政機関関係者、企業等関係者らによって構成され、弘前大学が平成26年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」及び平成27年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の取組に関して、第三者による客観的評価を行うために設置された。

委員会には、外部評価委員である山形大学理事・副学長の安田弘法氏、函館市企画部次長兼国際水産・海洋都市推進室長の本吉勲氏、一般財団法人青森地域社会研究所常務理事の竹内紀人氏、青森県高等学校長協会会長の成田昌造氏、青森コミュニティビジネス株式会社(青森県男女共同参画センター館長)の小山内世喜子氏が出席した。

佐藤機構長による挨拶の後、委員長に安田氏が選出された。続いて平成27年度の弘前大学COC事業及び青森COC+事業の取組や実績について、各担当者から説明を行い、その後、各委員から、事業に関する評価や改善の提案など、忌憚のない意見があった。







## 2. 外部評価報告

## 弘前大学COC事業及び青森COC+事業 外部評価結果報告書

弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会

日 時 平成28年11月28日（月）13時30分～16時15分  
 場 所 弘前大学創立50周年記念会館 2階 岩木ホール  
 対象年度 平成27年度

## 《外部評価委員》

委員長 安田 弘法【国立大学法人山形大学理事・副学長】  
 委 員 本吉 勲【函館市企画部次長，国際水産・海洋都市推進室長】  
 委 員 竹内 紀人【一般財団法人青森地域社会研究所 常務理事】  
 委 員 成田 昌造【青森県高等学校長協会 会長】  
 委 員 小山内 世喜子【青森コミュニティビジネス株式会社（青森県男女共同参画センター館長）】

青森COC+事業外部評価結果

評価項目	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4	委員 5
実施体制	3	3	3	4	3
教育改革	3	3	3	4	3
学生の地元就職・起業支援 （ブロック事業）	3	3	3	3	4
雇用創出	4	3	4	3	4
全体評価	3	3	3	4	3

## 《評語》

4：計画を上回って実施している／3：計画を十分に実施している  
 2：計画を十分には実施していない／1：計画を実施していない

## 外部評価委員長からの総評

### 【青森COC+事業に関して】

青森COC+事業は、青森県の最大の課題である「人口減少克服」のため、弘前大学をCOC+大学とし、青森県にある8大学1高専、青森県、県内主要4市、県内企業等（約100社）の協働による「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に一丸となって取り組み、学生の地域就職率の向上、雇用創出を実現するものであり、この取り組みには多くの期待が寄せられている。

初年度となる平成27年度は、弘前大学長を機構長とする青森COC+推進機構を設置し、オール青森の体制で事業協働地域を活性化する体制を構築している。また、COC+推進コーディネーターと県内4つのブロックにコーディネーターを配置し、各ブロック事業の進捗管理と事業協働機関相互の連絡調整を行う体制を整えている。

教育改革については、教育プログラム開発委員会の規定等の整備、各WG委員会における参照基準の検討等が実施されている。学生の地元就職・起業支援については、学生の地元企業へのインターンシップや就職・起業支援についてブロック毎に共同企画・実施する等、学生の地元企業に対する意識や認知度が高められている。また、雇用創出については、各大学における新産業・ビジネスを創出する仕組みの検討が進められたほか、先行するプロジェクトにおける新産業創出につながる製品の試作等が行われている。これらのことから、本事業は計画を十分に実施していると評価できる。

本事業は準備段階であり、いずれもチャレンジングな取り組みであるが、最終目標である地域創生、地方創生に向かって『オール青森』で、ますます加速していただきたい。

## 外部評価各委員からの意見等

## 《青森COC+事業に関して》

- 計画を十分に実施している状況であると思う。今、ある意味では準備段階を走っている最中なので、ますます加速していただければと思う。最後の目標は、地域創生、地方創生である。県の人口ビジョンで言うと、2080年頃に約80万人で安定する。ということは、その後、反転するということが、130万人が80万人に向っていく道筋で、どういう街がどこに形成されて、どういう役割分担をするのか、それを創る人財をオール青森体制で育成する、これがCOC+だと認識している。仕事を作らなければ人は育成できないけれども、育成する仕事を作ることもまた仕事の一環であり、それによってようやく街づくりができる。同時進行でしか出来ない。そういう意味では、リーダーだけが頑張っても全員で向わなければできない業である。普及、宣伝という話もあるが、推進本部、各ブロックの動きについては、もちろん加速していただき、また同時に、ますます広くCOC+の考え方を広げていただき、民間の我々も一緒にやらせていただきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- 現時点では十分実施出来ていると思う。元々の目的が、地域人財を創っていくということなので、まず、大学に地域の人が入学してくれないと困る。大学の魅力について、子供達も知らない部分があると思うので、地元の子供達が地域の大学を目指すような取り組みをしていただきたい。その中で、大学OBの活用も今後出てくるのではないかと思う。また、雇用の部分については、地元企業には大学OBが入社していると思う、そういう人材の活用も出てくると思う。今回、新規の学卒者が指標になっているが、Uターン等のフォロー、人材の活用もターゲットに入れて動けば、実質的な雇用増が出てくると思う。
- COC+には3つの大きな柱があり、1つは教育改革、1つは学生の地元就職・起業支援、最後が雇用創出である。それぞれきっちりした柱、骨格を基に、これから立ち上がり進みつつあると感じている。いずれもチャレンジングな取り組みなので、今後とても期待できる部分であると思う。



# 地(知)の拠点



## 6. 參考資料

---

Reference



## 青森 COC+推進機構 規約

## 第1章 総 則

(名称)

第1条 本機構は、「青森 COC+推進機構」と称する。

(機構員)

第2条 本機構は、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に係る連携・協力に関する協定」（平成27年11月26日）を締結した大学等、青森県、青森市、弘前市、八戸市及びむつ市の代表者をもって構成する。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本機構は、機構員及び青森県内の企業・NPO等との連携・協力により、青森県の将来を担う人財の育成や地域への若者定着の促進、大学等を核とした地域産業の育成・雇用創出に向けた事業（「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」）を実施し、青森県の重要課題である人口減少の克服に資することを目的とする。

(所管事項)

第4条 本機構は、前条の目的を達成するため、次の事項を所管する。

- (1) 事業の計画・立案にかかわること
- (2) 事業の予算及び執行にかかわること
- (3) 事業の評価にかかわること
- (4) 各機構員及び企業・NPO等の連携・協力にかかわること
- (5) その他、事業の円滑な実施に必要なこと

## 第3章 機 関

## 第1節 役員等

(役員の種類及び定員)

第5条 本機構に、次の役員を置く。

- (1) 機構長 1名
- (2) 副機構長 2名
- (3) 監事 2名

(選任等)

第6条 前条の機構長は弘前大学長をもって充てる。副機構長及び監事は、機構員の互選により選任する。

(職務等)

第7条 機構長は、本機構を代表し、業務を統括する。

2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長に事故あるとき又は欠けたときは、機構長があらかじめ指名した順序によりその職務を代行する。

3 監事は、本機構の業務等の執行状況を監査する。

(任期)

第8条 役員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(COC+推進コーディネーター)

第9条 本機構に、COC+推進コーディネーターを置く。

2 COC+推進コーディネーターは、事業推進のための進捗管理、連絡調整、経費の配分方針に関する業務を行う。

## 第2節 機構会議等

(機構会議)

第10条 本機構に、機構の運営及び事業の重要事項を審議するため、機構会議を設置する。機構会議は、機構長、副機構長及びCOC+推進コーディネーターをもって構成する。

2 機構会議について必要な事項は、別に定める。

(教育プログラム開発委員会)

第11条 本機構に、地域創生人財の育成に係るプログラムを開発するため、教育プログラム開発委員会を置く。

2 教育プログラム開発委員会について必要な事項は、別に定める。

(外部評価委員会)

第12条 本機構に、事業に関して第三者による客観的な評価を行うため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会について必要な事項は、別に定める。



### 第3節 総会

(総会)

第13条 総会は、全ての機構員をもって構成する。

2 総会について必要な事項は、別に定める。

(召集)

第14条 機構長は、毎年度1回以上、総会を招集する。

2 機構長は、必要に応じ臨時総会を招集することができる。

(議長)

第15条 総会の議長は、機構長又は機構長の指名する副機構長がこれを行う。

(定足数及び表決)

第16条 総会は、機構員の過半数の出席をもって成立する。ただし、当該議事に関し書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席したものとみなす。

2 出席者の過半数をもって議決とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### 第4章 その他

(事務局)

第17条 本機構の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、国立大学法人弘前大学に置く。

(委任規定)

第18条 この規約に定めるもののほか、本機構の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成27年11月26日から施行する。

## 青森COC+推進機構 機構員名簿

【平成28年11月27日現在】

役職等	氏名
(機構長) 弘前大学長	佐藤 敬
(副機構長) 青森中央学院大学長	花田 勝美
(副機構長) 八戸工業高等専門学校長	岡田 益男
(監事) 青森県立保健大学長	上泉 和子
(監事) 八戸学院大学長	大谷 真樹
東北女子大学長	小澤 熹
八戸工業大学長	長谷川 明
弘前学院大学長	吉岡 利忠
弘前医療福祉大学長	下田 肇
青森中央短期大学長	久保 薫

青森県知事	三村 申吾
-------	-------

青森市長	小野寺 晃彦
弘前市長	葛西 憲之
八戸市長	小林 眞
むつ市長	宮下 宗一郎

## 青森COC+推進機構会議 構成員名簿

【平成28年4月1日現在】

役職等	氏名
(機構長) 弘前大学長	佐藤 敬
(副機構長) 青森中央学院大学長	花田 勝美
(副機構長) 八戸工業高等専門学校長	岡田 益男
(監事) 青森県立保健大学長	上泉 和子
(監事) 八戸学院大学長	大谷 真樹
COC+推進コーディネーター	吉川 源悟

## ○教育プログラム開発委員会内規

### (趣旨)

第1条 この内規は、青森COC+推進機構規約第11条第2項の規定に基づき、教育プログラム開発委員会の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (組織)

第2条 教育プログラム開発委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 弘前大学理事（教育担当）
- (2) COC+事業を担当する弘前大学副理事
- (3) 弘前大学から選出された者 1名
- (4) COC+事業に参加する各高等教育機関から選出された者 各1名
- (5) COC+事業に参加する各自治体から選出された者 各1名
- (6) COC+事業に参加する企業から選出された者 2名
- (7) COC+事業に参加するNPO法人から選出された者 2名
- (8) その他委員長が必要と認めた者

### (委員長及び副委員長)

第3条 教育プログラム開発委員会に、委員長を置き、第2条第1号に掲げる委員をもって充てる。

- 2 委員長は、教育プログラム開発委員会の業務を総括する。
- 3 教育プログラム開発委員会に、副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第4条 委員長は、会議を主宰し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数をもって成立する。

### (委員以外の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

### (ワーキンググループ)

第6条 教育プログラム開発委員会に、次に掲げるワーキンググループを置く。

- (1) 共育型インターンシッププログラムワーキンググループ
- (2) 女子学生のキャリア支援プログラムワーキンググループ
- (3) 起業実行プログラムワーキンググループ

- 2 ワーキンググループは、各プログラム開発に関する業務を行う。
- 3 ワーキンググループについて必要な事項は、別に定める。



(その他)

第7条 この内規に定めるもののほか、教育プログラム開発委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成28年1月7日から施行する。

## 教育プログラム開発委員会 委員名簿

【平成29年1月4日 現在】

教育プログラム開発委員会内規 第2条	氏 名	職名等
(1) 弘前大学理事(教育担当)	伊 藤 成 治	(委員長)
(2) COC+事業を担当する弘前大学 副理事	曾 我 亨	
(3) 弘前大学から選出された者	西 村 君 平	COC推進室助教
(4) COC+事業に参加する各高等 教育機関から選出された者	角 濱 春 美	(副委員長)青森県立保健大学看護学科教授
	丹 羽 浩 正	(副委員長)八戸学院大学学長補佐・ビジネス学部教授
	塩 谷 未 知	(副委員長)青森中央学院大学キャリア支援センター長・ 経営法学部教授
	小 野 昇 平	東北女子大学児童学科講師
	阿 波 稔	八戸工業大学学務部次長・土木建築工学科教授
	高 松 彰	弘前学院大学就職課長
	小 玉 有 子	弘前医療福祉大学地域貢献室長
	大 沢 陽 子	青森中央短期大学幼児保育学科長・教授
	丸 岡 晃	八戸工業高等専門学校産業システム工学科教授
(5) COC+事業に参加する各自治体 から選出された者	船 木 久 義	青森県企画政策部企画調整課副参事 (基本計画推進グループマネージャー)
	船 橋 正 明	青森市市民政策部政策推進課長
	森 岡 欽 吾	弘前市経営戦略部ひろさき未来戦略研究センター副所長
	久 保 朝 生	八戸市総合政策部政策推進課長 (震災復興推進室長事務取扱)
	角 本 力	むつ市総務政策部総合戦略課長
(6) COC+事業に参加する企業から 選出された者	三 上 善 昭	株式会社青森電子計算センター弘前営業所調査役
	平 野 浩	三八五流通株式会社取締役人事部長
(7) COC+事業に参加するNPO法人 から選出された者	米 田 大 吉	プラットフォームあおもり理事長
	類 家 伸 一	循環型社会創造ネットワーク理事長
オブザーバー	吉 川 源 悟	青森COC+推進機構 COC+推進コーディネーター

## 青森 COC+事業における外部評価委員会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業（以下「青森 COC+事業」という。）に関し第三者による客観的な評価を行うため、青森 COC+推進機構規約第12条第2項の規定に基づき設置する青森 COC+事業における外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 外部評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、機構長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 行政機関関係者
- (3) 企業等関係者
- (4) その他機構長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第3条 外部評価委員会に、委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、外部評価委員会の業務を総括する。

3 外部評価委員会に、副委員長を置き、委員長が指名する者をもって充てる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 委員長は、会議を主宰し、その議長となる。

2 会議は、委員の過半数をもって成立する。

(委員以外の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(その他)

第6条 この内規に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成28年6月30日から施行する。

## 弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会 委員名簿

【平成28年9月1日 現在】

氏 名	職 名 等
安 田 弘 法	国立大学法人山形大学理事・副学長
本 吉 勲	函館市企画部次長 国際水産・海洋都市推進室長
竹 内 紀 人	一般財団法人青森地域社会研究所 常務理事
成 田 昌 造	青森県高等学校長協会 会長
小 山 内 世 喜 子	青森コミュニティビジネス株式会社 (青森県男女共同参画センター 館長)



## ■ 女子学生のキャリア支援プログラム インタビューの結果



平成28年9月28日  
青森県立保健大学



## 大学生の地元定着就職に関する インタビューの結果

本学では、卒業生の県内就職・定着・Uターンを推進する事業を展開してきました。このたび、就職地（県内 or 県外）を決める要因について、学生の「生の声」から分析したので、報告します。

### I. 調査について

平成28年3月に卒業、4月に就職した学生のうち、青森県出身者を中心とした本学学生及び既に就労している卒業生29名を対象とし、2月～3月に行いました。将来のキャリアや暮らし方について、就職地及び就職先を決定した決め手について質問し、この結果を、就職地を選択する要因を中心に分析しました。

本調査は、弘前大学が平成27年度に採択された、文部科学省の助成事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業である、「女子学生の県内就職・定着に向けたキャリア支援教育プログラム」（青森県立保健大学が開発主査校）の平成28年度活動として行ったものです。

### II. 結果について

就職地を決めるにあたって、4つの要因が関連していることがわかりました。

次ページの図のように、4つの要因を秤にかけ、そのバランスによって就職地が決定されているのではないかと考えています。

学生は故郷である青森の文化や風土に対する愛着や、故郷の役に立ちたい意識を感じていました。しかし、「青森に残るのは負け組」といった、「挑戦できずに残る私」というネガティブな語りもありました。また、県外にいる青森県出身者の活躍を心強く感じていました。

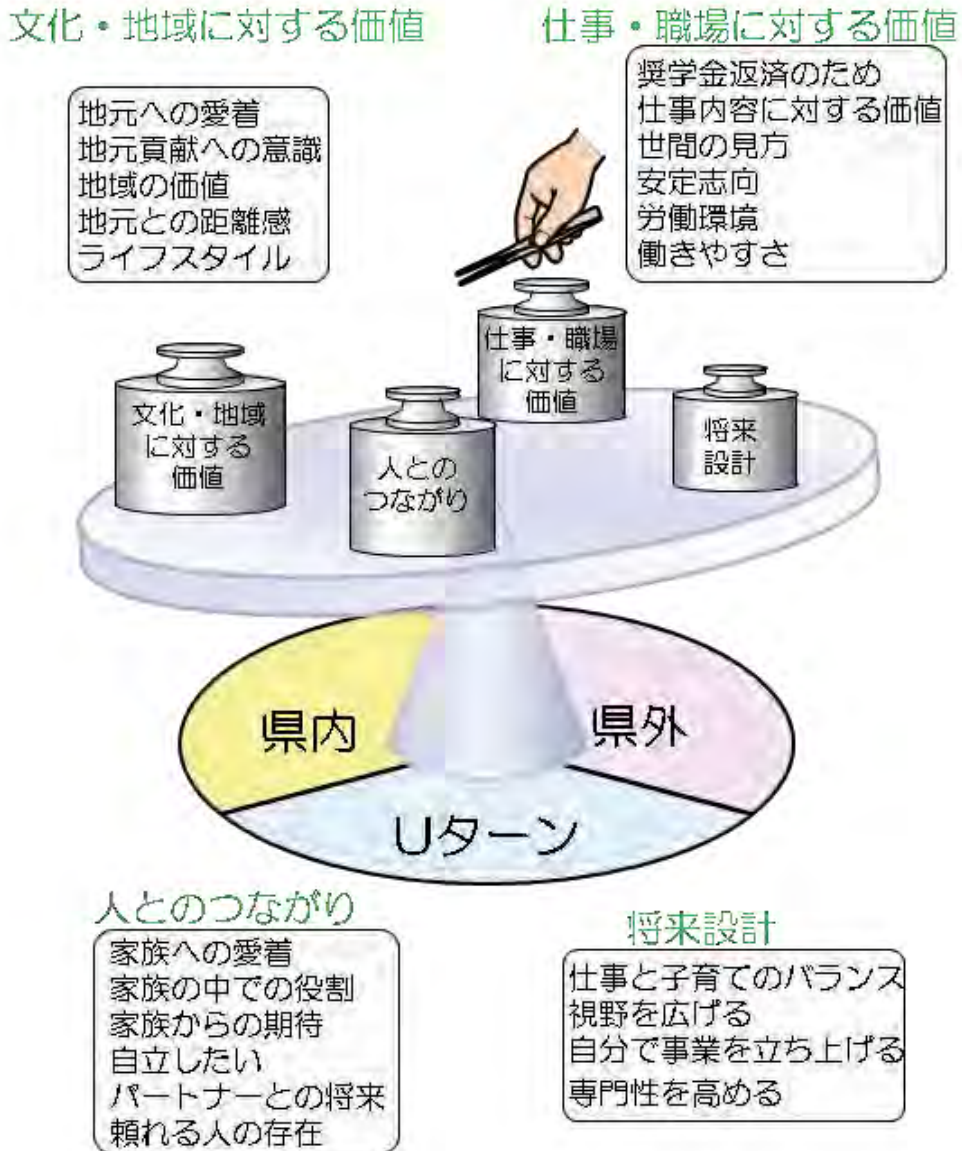
仕事・職場については、安定・堅実志向であり、仕事をする以外以外の心労（人間関係や、劣等感など）を抱えたくないと感じているようであり、余裕のある仲の良い職場で、サポートが受けられることを望んでいました。

人とのつながりについては、現在の親との関係だけでなく、将来老いていく親について考えが及んでいました。また、頼れる人のそばにいて安心したいという思いもあり、これが県内への就職、友人のそばでの就職に結びついているようでした。また、「パートナーとの将来」が、就職地選択に強く影響していると考えられました。

将来設計については、「出産・子育て」についての要因が多くみられました。学生は、子供を産みたい、相應の時間をかけて育てたいと希望していました。しかし、産休や育休、仕事と子育ての両立については、具体的なイメージが抱けていないようでした。

故郷への就職を推進するためには、故郷への愛着を育てることだけでなく、ここに居たい（離れがたい）と思えるような人間関係が形作られていることが必要だと思われます。また、出産や子育て、生活にかかる時間やお金に関して具体的なイメージを持つことで、確信をもって就職地を決定できるのではないかと考えています。

図：就職地決定モデル



## ■ COC + 事業新聞掲載記事

東奥日報 夕刊 1面 (平成28年6月20日付)



# 田舎館の魅力 私たちが発信

学生が長期間にわたって地域に入り、地元住民と連携しながら魅力を探る弘前大の「共育型地域インターンシップ(就業体験)」が5月末、田舎館村で本格的に始動した。人文学部の学生3人が村の名物「田んぼアート」に参加しながら、経済効果の分析やイベント・商品の企画などに携わる。3人は「まずは田舎館村の良さを見つけて外に届けたい」と張り切っている。

## 弘大生が就業体験

快晴に恵まれた5月29日、

村役場裏側の田んぼアート第1会場で泥に足を取られながら八島愛美さん(3年)、伊東遥さん(同)、小松裕理香さん(2年)が苗の手植えに汗を流した。

「みんな優しい。周りが話し掛けてきてくれる」と表情はにこやかだ。「いろんな魅力が田舎館にはあると思うので私たちの目線で新しい商品、企画に結びつけたい」(八

## 田んぼアート企画、民泊開発も

鳥さん)「田んぼアートを新しい視点でとらえたい」(伊東さん)「コメ、イチゴなどを発信していく」。

地元の食に関心がある(小松さん)と3人が意気込みを口にした。手始めにインター

ネットのブログ開設などを通じて、田舎館村に関する情報を発信していく。

活動は、弘大が人口減少対策として県内他大学や自治体、企業などと連携し学生の



田舎館村の田んぼアートを活動の軸にしなが、地域の魅力発信に努める3人。左から伊東さん、八島さん、小松さん

OC+)」に採択された。

3人は田んぼアートの田植え・収穫などに参加しながら①経済波及効果の分析②映像データの収集・発信③関連する新イベントの企画・運営④田んぼアートのPRにつながる目玉商品の企画⑤田んぼアートをゆっくり楽しんでもらう民泊システムの開発—を目指す。

今後、村内でキーとなる人物との接点を持ちながら活動の中心を詰める。テーマは五つ設定されたが、地元産の食材を使った商品を民泊施設で提供する—といったように「お互い重なり絡み合っていく部分は多い。そこをうまく情報発信してほしい」と弘大COC推進室の野口拓郎助教は今後のイメージを語った。

事業は、学生の県内定着を後押しするのが狙い。村企画観光課・工藤康人係長は「まずは動いてもらい村を元気にしてもらいたい。今回、自分たちが始めた事業について、後々関わっていくような意識を持ってもらえれば」と期待を寄せる。活動は11月まで続く。(本間善幸)

東奥日報社提供



### 学生による学生のための県内企業紹介雑誌

学生による学生のための県内企業紹介雑誌「SCENE (シーン)」が発行された。“青森県の大学生が作る、青森大好きマガジン”と銘打

ち、学生自身が県内企業取材しその取り組みを発信することで、よりダイレクトに学生に魅力を伝える取り組みだ。(西尾瑛)

# 魅力ダイレクトに発信



完成したSCENEを手にする編集長の小寺さん(左)、副編集長の小田桐さん

## 弘大生ら中心 取材、制作まで 必修授業で配布も

人口減少に歯止めをかけるべく、県内の大学や自治体、企業などが協働し、学生の県内就職や起業支援などに取り組む「青森COC+事業」で行う学生企業調査の一環。弘前大学の学生を中心に、企画、取材、編集、制作までを担う。

記念すべき第1号は、お酒をテーマに六花酒造(弘前市)と、サンマルワインナリー(むつ市)の2社を取材。「人の魅力は企業の魅力」と、企業を引っ張る「人」に焦点を当てつつ、企業のことわりや挑戦、学生へのメッセージなどをつづっている。

このほか、COC+事業として田舎館村で

行っている、同村名物はじめ県内の大学など・田んぼアートの経済効果や情報発信方法、イベント企画などを学ぶ「共育型地域インタラシシップ」参加学生へのインタビューや、地域での学生の活動の様子を紹介している。今後は2カ月に1回の発行を予定し、部数は300部。弘大を

はじめて県内の大学などで配布していく。加えて、早いうちから青森について興味を持ってもらおうと、弘大1年生に対しては必修授業「取材に出掛けること自体がプラスになるの」で、他大学など、もって、これは絶対に伝えなければと思った。これからまたどんな企業に出会えるか楽しみ」と語った。

陸奥新報社提供

東奥日報 23面 (平成28年9月10日付)

# 県内企業人らに焦点

## 学生による学生のための就職情報誌

### 「SCENE」弘大生有志が創刊

弘前大学の学生有志がこのほど、県内企業を紹介する雑誌「SCENE（シーン）」を初めて製作した。県内の企業人らに焦点を当てて、大手の就職情報サイトでは得られない県内企業の情報を発信する「学生による学生のための雑誌」を目指している。

（鎌田秀人）

県内の大学や自治体、企一内就職や起業支援などに取業などで構成し、学生の県一り組む「青森COC+推進



学生有志が初めて製作した県内企業紹介雑誌

機構」（事務局・弘前大学）が発行。

創刊号のテーマは「お酒」で、同機構の呼び掛けに応じた学生14人が2カ月かけて、取材や編集、レイアウトなどを手がけ、六花酒造（弘前市）とサンマルワイナリー（むつ市）の社長らの熱い思いや抱負などを掲載している。

裏表紙も含め全12ページで、田舎館村で行っているイン

ターニングの参加学生3人へのインタビューなども紹介。編集スタッフの1人、人文社会科学部1年の小田桐大空さん（19）は「レイアウトなど何も分からないところからスタートしやっとならした。多くの学生に県内企業や地域の魅力を知ってほしい」と話す。

発行ペースは2カ月に1回で、弘大を中心に配布。同機構は今後、県内の学生を広く巻き込んで製作する方針。

東奥日報社提供



# 魅力いっぱい 企業の力

「青森COC+」むつで見学会

## 大学生「見方変わった」

弘前大学など県内の大学や自治体、企業などで構成する「青森COC+推進機構」(機構長・佐藤敬弘前大学長)は6、7日、むつ市内で企業等見学会を開いた。青森中央学院大学と弘大から学生11人が参加し、各企業の特徴や技術などに理解を深めた。

同機構が取り組んでいる地域創生への人材育成、定着事業の一環で、むつ市内での開催は初めて。学生たちは2日間の日程で、アツギ東北、マエダなどの会社5カ所と海洋研究開発機構を回った。

ホタテ養殖用機械を開発、製造している「むつ家電特機」の見学では、ホタテ貝の大きさを選別する機械、貝の表面を洗浄する機械、耳づり養殖用のピンをロープに通す機械などについて、杉山弘昭社長から説明を受けた。

弘大理工学部地球環境学科3年の奈良岡亜季さんは「独自の先端技術を持ち、国際的な視点で仕事をしている企業がむつ市にあることが分かった。見方が変わった」と話した。青森中央学院大経営法学部3年の工藤領大さんは「スパーが

地域の高齢者などのために買い物用バスを運行していたのが印象的だった」と振り返った。

同機構青森ブロックの佐藤仁コーディネーターは

「学生たちの視野が広がったよ。むつには魅力的な企業がまだまだある。今後も見学会を継続していきたい」と述べた。

(近藤弘樹)

東奥日報社提供

## エネルギーの未来探る

### 弘大 新学科開設記念でシンポジウム

今春、弘前大に自然エネルギー学科が開設されたのを記念して、弘大理工学研究科は28日、弘前市のアトホテル弘前シティでシン

ポジウム「地域エネルギーの未来を考える」を開いた。大学や自治体、企業などの関係者約200人が、地球環境産業技術研究機構（京

都）の山地憲治研究所長らの講演を聞き、自然エネルギーの活用を巡る施策に理解を深めた。

日本エネルギー学会の会長も務める山地所長は基調講演で、地球温暖化対策などの政策を解説。弘大自然エネルギー学科は人文社会科学と連携して人材育成を目指す点に触れ「エネルギー工学は工学の中でも、経済学などの視点が大事なので、ぜひお願いしたい」と述べ、文理融合の研究や県内資源の活用などに期待した。

自然エネルギー学科長の阿布里提教授は、同学科の基本方針や燃料電池、マグマ発電、バイオマスなどの研究テーマを紹介した。

また、県や弘前市、平川

市の担当者も、エネルギーに関する産業振興戦略や中心市街地での大規模な融雪インフラ構想などを説明した。

（鎌田秀人）

東奥日報社提供

東奥日報 22面 (平成28年11月5日付)

## 「共育型インターン」学ぶ 青森中央学院大フォーラム



ワークショップを通じて「共育型  
インターンシップ」を学ぶ参加者

県内の大学と自治体、企業が連携して学生の県内就職率向上を目指す事業に取り組んでいる青森COC+推進機構事務局などは4日、学生、企業の双方に魅力がある就業体験機会をつくる「共育型インターンシップ」を推進するフォーラ

ムを青森市のホテル青森で開いた。フォーラムは同事業に参加する青森中央学院大学が担当し、県内外の企業や大学の関係者、学生ら約50人が出席した。事例紹介では、青森テレビの担当者が、学生と一緒に

に番組の新コーナーを企画・制作する実践型インターンシップの狙いを説明。経営コンサルタントの若山経営（青森市）の担当者は、学生が経営者を疑似体験できるゲームをインターンシップに導入している取り組みを紹介した。

グループごとのワークショップでは、企業の課題解決に向けて学生がビジョンづくりを進める共育型インターンシップの一例を体験した。

進行役のNPO法人プラットフォームあおもりの米田大吉理事長は「会社の良いところだけではなく、弱みも正直に学生に伝え、『課題解決に向けて一緒に挑戦しよう』という意識が必要だ」などとアドバイスした。

(三好陽介)

東奥日報社提供



陸奥新報 2面 (平成28年12月3日付)

## 交流イベントや民泊普及活動

# 地域活性化へ 取り組み提案

弘前大学の学生が田舎館村でのインターンシップを通じて地域活性化の在り方を探る「共育型地域インターンシップin田舎館」の成果報告会が2日、村役場

で開かれた。弘大生3人が約半年間にわたる活動と、村民との交流を通して考えた地域活性化の取り組みを提案した。

(成田真矢)

### 弘大生が田舎館インターンシップ

## 半年間活動成果を報告



約半年間にわたったインターンシップを振り返り、今後の地域活性化についてアイデアを提案した成果報告会

同インターンシップは、青森COC+推進機構(機構長・佐藤敬)が初めて実施したもので、人文学部3年の八島愛美さ

んと伊東遥さん、同2年の小松裕理香さんの3人が参加。5月から11月にかけて村に通った田んぼアートの田植えやイチゴ農家訪問などを通じ地域住民と交流を深め、村の魅力を探った。またこれまで

の活動を基にツアー、民泊、子どもとの交流イベント、それぞれが考えた地域活性化の企画を立案、実施した。

報告会では、3人がインターンシップで体験した活動内容や、自分たちの企画について振り返った後、村の地域活性化策を発表。伊東さんは既存イベントで村民と交流する時間が少ないと感じたこと

から、村民とイベント参加者、あるいは村民同士が交流できる仕組みにしたいと提案。その

他、民泊の普及活動や弘大生間で田舎館観光を流行にするなどのアイデアが出された。鈴木孝雄村長は「村のいいところは、自分たちにとって当たり前になっていてなかなか出てこない。こうして外部から来てくれることでいろんな発見ができた」と、今回のインターンシップの成果をたたえた。

陸奥新報社提供



東奥日報 15面 (平成28年12月8日付)

# 田舎館の良さをどう発信

今年5月から田舎館村に定期的に通って住民と触れ合い、村の魅力をさまざまな視点から掘り起ししてきた弘前大の学生3人による「共育型地域インターンシップ（就業体験）」が11月に終了した。3人は活動の成果として「お米ツアー」などを企画。「自分たちの提案が田舎館の未来につながってほしい」と願った。

(本間善幸)

## 交差点

交流が少なく実感した。食につなげていく「年間イベント」に、村の魅力が伝わる仕組み「田舎館好き」を増やしてほ

### お米ツアーや民泊提案

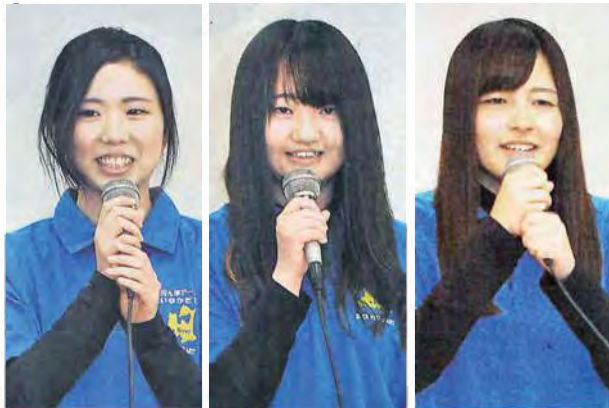
弘大の「オール青森で取り組む地域創生人材」育成・定着事業の一環、人口減少対策として県内他大学や自治体、企業など100以上の団体と弘大が連携、地域に定着する人材の育成や雇用創出を目指している。田舎館村での取り組みが県内第一号となった。3人は5月末の村名物「田んぼアート」の田植えで活動を本格的にスタート。農家訪問やねぶた制作で住民との触れ合いを深めた「田舎館を知る」(8月上旬)、他大学学生との交流や田んぼアートの種刈りで汗を流した「ことん活動」(10月上旬)を経て、しめくぐりに「お米ツアー」(本番)、農業体験、農家民泊の「企画実践」へと進んだ。今日2日、村役場で開かれた成果報告会で3人は、活動を通して考え出した企画を披露した。

## 弘大共育型インターンシップの3人



活動スタートとなった田んぼアートの田植えで、参加者への豚汁振る舞いを手伝った(左から)小松さん、八島さん、伊東さん

## 活動成果「未来につなげたい」



成果報告会でそれぞれの企画を披露する(左から)伊東さん、小松さん、八島さん

の根運動」(2年・小松裕理 べ物も含め田舎館のお米のずきさん) 農家民泊で体験し、すべてをPR。弘大生に田舎館た農業は楽しかった。民泊に 観光をはやらせ、友人や恋人は一見の楽しさとは違つて、と再訪してもいい。さらには「体験する楽しさ」がある。一方、大学卒業後に家族・友人とも田舎館には民泊の運営組織 来てほしい。が、新たに始めようとする人も少ない。実際に客を受け入れてくれるホストファミリーと宿泊者、さらには民泊に「交流会」を開き、民泊の機運を盛り上げよう。 ■田舎館を流行に「3年 八島愛美さん」 田舎館のシンボルはやはりお米。お米「ツアー」は五感を使ってとことん田舎館を楽しめる。田んぼアートを見るだけでなく、制作に関わる村民との交流やその思いに触れ村の歴史、食た。 事業を担当する弘大・曽我 亨副理事は「じっくりかわいーと宿泊者、さらには民泊に デアが出て来た。3人の言葉 関心のある農家を集めて の向こう側に地域の人の姿が 見えたことが良かった」と講 評。田舎館村の鈴木孝雄村長 は「獅子舞など村の古い文化 にまだ触れていないようなの で、3人を卒業させることは できない」と介談を飛ばしな がらも「提案を村の発展に 生かしたい」と満足をうたう

東奥日報社提供

# 「恋する灯台」で挙式、「寒立馬」基に商品…

## 東通の活性化 弘大生提案

むつ

弘前大学など県内の大学や自治体、企業などで構成する「青森COC+推進機構」は2月27日、大学生による下北地域での起業プロセ

ス実証研究の成果報告会をむつ市のむつ来さまい館で開いた。弘前大学の学生たちが、昨年9月から今年2月にかけて東通村で行った活動内容を報告した。(近藤弘樹)



東通村での活動内容を発表する弘前大の澤村さん(左)と田村さん

### 可能性「至る所にある」

実証研究は、県の「まち・ひと・しごと創生オールあおもり連携促進事業」の一環。弘前大の学生7人が、同村の地域おこし団体「東通★東風塾」と連携し、郷土菓子べこもち作りの体験や、イベントでの名産品の販売を実践しながら地域活性化の可能性を調査。尻屋崎の「恋する灯台」で挙式など東通村に観光客を呼び込む方法や、寒立馬をモチーフにした飲料水用ペットボトルなど新たな商品開発のアイデアを提案した。

澤村美紅さん(人文学部2年)は「東通村の地域資源と積極的な人たちを知り、地域活性化につながるものが至る所にあることが

分かった」と、田村優さん(同)「えられる。新たな観光を創出できるのではないかな」と話した。

東奥日報社提供





「起業家とは何か」について話し合う参加者たち

# 県内起業 君ならどうする？

## 八学大 若者向け講義

**八戸** 若者を対象とした「起業家養成集中講義」が今月上旬、3日間にわたって八戸市で行われた。19～25歳の男女9人が市内のホテルに泊まりながら、起業についてのノウハウを一からみっちり学び、おおもりカシスの市場拡大策や南部町で取れる果物のブランド化といった、オリジナルのビジネスプランを仕上げた。地方の人材流出対策として主催した八戸学院大学関係者は「今後、県内の各大学と連携して取り組みを広げたい」と話す。(山内はるみ)

## 交差点

参加した9人は起業を目指す人、自分で起業する気はないけれど「なぜ起業したいか」「どうするか」に興味がある人など思いはさまざま。二つのグループに分かれ、それぞれ一つずつアイデアを練った。初めはビジネスの対象や目的を固めることができず方向性が定まらなかったり、計画が行き詰まったりと苦戦。しかし、講義を重ね議論が進むことに自分たちなりのビジネスが形にな

っていった。最終的に「おおもりカシスの市場拡大のため収穫ド化が可能で、最終日は、講師を投資家に見立ててプレゼンテーションを行ったアウトローな人をカシス農家の追い手として育てる」南部町で取れる豊富な果物を活用

同大はこれまで1期が半年以上の起業家養成講座を12期開いてきたが、今回は対象を本県出身や県内の大学に通う若者に絞った短期集中型。各大学が噛みを生かして地域活性化の拠点を目指す「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業「COC」の一環として開いた。同講座のOBや経営コンサルディンクの専門家などを講師に迎え、起業について学びと同時に、それぞれが考えたビジネスアイデアをより具体的なプランへと「見える化」した。



講義最終日、自分たちのビジネスプランについてプレゼンテーションする参加者たち

し、365日違う味が楽しめるフルーツティーを作る」という二つのプランを完成させた。

「他人に縛られたくない、仲間と群れることを好むというアウトローな人は、服装などが自由で、みんなを協力しながら作業する農業に向いているんです。収穫機を作って販路を開拓し、おおもりカシスに革命を起こします」

「南部町で取れる果物は299種類あり、さまざまな紅茶と組み合わせれば毎日違う味を楽しめる。町から全国へ売り出す」

## ● おおもりカシス市場拡大 ● 南部町のフルーツティー

講義最終日、自分たちのビジネスプランについてプレゼンテーションする参加者たち

## 地域活性化へ独自プラン

講師からは「非常にノーショール・インパクト(それをやることで世の中がどう変わるか)があり、目の付け所がおもしろい」といった評価の一方、「採算が取れるのかはつきりせず、ビジネスとして成功するか不安」といった指摘も。9人は熱心にメモを取りながら真剣なまなざしで聞き入っていた。

4月から重機メーカーに就職する東京大経済学部4年の久住美法子さんの「南部町出身」は、「起業はリスクがあってもいいイメージだったけど、今は夢があつて魅力的なものと感じている。強い思いを傾けられる何かに出会えたら、ぜひ起業して形にしたい」と充実した表情。

八戸学院大ビジネス学部1年の岩間勝己さん(19)は「これまで勉強してきたことを生かし、起業した人をサポートする仕事に就きたいと思った。進路を考えるためのいい経験になった」と話した。同大の松山政義学長補佐は「教える側の体制を整えれば、人材を地域に残す一つの事業としてやっていけると手応えを感じた」と語った。

陸奥新報 5面 (平成29年3月10日付)

講演や分科会を通じ、参加者が地域で育む人材の重要性について学んだシンポジウム



## 企業と学生協働意義は

COC+ 推進機構 弘前でシンポジウム

青森COC+推進機構（機構長・佐藤敬弘前大学長）主催のシンポジウム「学生が企業を変える！企業力強化に向けた採用戦略」が

なつての人材育成の重要性について学んだ。

同機構には弘大など県内9大学と1高専、県と弘前など4市、企業やNPOなど107団体が参画。2019年度の学生の県内就職率は14年度比10%増の48・1%に引き上げることを目標に掲げる。

第1部では「NPO法人ETI.C.」ローカルイノベーション事業部マネジャーの伊藤淳司さんが「社長の夢をかなえた学生活用術」と題し講演した。

学生と企業が問題解決を目指す実践型インターンシップとして、木製升を扱う企業では、学生と協働で升と花をコラボし、結婚式向けの新商品を開発し、新たな販路開拓に

成功した事例などを紹介。

実践型導入の意義について伊藤さんは「学生にとっては自分の中

に一つの「基準」があり、企業側も新たな人材との出会いや挑戦、組織内の変化などにつながる」と指摘した。

「オフィス55」の高木茂代表取締役も「採用難時代を勝ち抜く企業」のテーマで講演した。（山本恵子）

陸奥新報社提供



東奥日報 23面 (平成29年3月14日付)

# 看護学生の定着模索

## 弘前 大学と病院、情報交換

県外流出が続く看護学生の定着を目指し、県内の看護系大学と病院が13日、弘前市の弘大創立50周年記念会館で情報交換会を行った。6大学と公立・民間11病院などの関係者40人がワー

クショップや事例報告などを通じ、採用に関する問題点の解決策などを探った。文部科学省の事業で、人口減少克服を目指す「青森COC+推進機構」弘前ブ

度)を、19年度に10%アップすることを目標に掲げている。同機構によると、看護学生が県外に流出する割合は、本県が全国最悪というデータもあるという。

情報交換会では、県立保健大の角濱春美健康科学部長が、女子学生のキャリア支援教育プログラム開発の取り組みについて報告。病院側の採用活動について「看護部門と事務部門が一緒に取り組むべき。就職説明では包み隠さず弱みも見せて」などと助言した。採

用力」向上のため、看護部門管理者と事務職員を対象にしたセミナーを、6月10

日に予定しているという。このほか、弘前記念、弘前市立、健生の各病院や弘大保健学科の



参加者 看護学生の県内定着に向けて意見交換する

大保健学科の担当者が就職や採用の状況や採用の状況を説明した。弘大の曾我亨副理事(COC担当)は「病院と大学が互いの状況をよく知り、看護学生に正確な情報を伝えて、県内に定着する環境を整備したい」と話した。(鎌田秀人)

東奥日報社提供

陸奥新報 2面 (平成29年3月14日付)



## 看護学生の県内定着を

### 弘前・県内病院と大学が情報交換 採用への問題点探る

県外流出の著しい看護学生の県内定着に向け、青森COC+推進機構（機構長・佐藤敬弘前大学学長）の弘前ブロックは13日、弘前大学創立50周年記念会

館で県内病院と大学間の情報交換会を開いた。参加した約40人の関係者らが、本県の看護学生採用に関する問題点と解決策を探った。

前半では、弘前記念病院など市内3病院が看護学生の採用事例、弘大医学部が就職事例

を報告。弘大からは「県内外で就職先病院の選択肢が多くて迷う」「インターンシップ説明会に参加している県内の病院が少ない」といった学生の声も紹介された。後半はワークショップ形式で実施。参加者は「インターンシップ

など、病院側が学生の採用活動に注力するべきではないか」「県内は就職試験の時期が遅いため、早く内定が欲しい学生は関東をはじめ他県での就職を決めてしまう」などと指摘し、課題の解決に向けて方法を話し合った。同機構は「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着」を目的として2015年に設立。弘前など県内9大学と1高専、県と弘前など4市、企業やNPOなど100社

以上が参画し、19年度の学生の県内就職率を14年度比10%増の48・1%に引き上げることなどを目指している。

（田中康貴）

陸奥新報社提供



東奥日報 23面 (平成29年3月18日付)

# 「命の絆」で誘客促進

地域に目を向けた教育・研究に取り組んでいる弘前大学COC推進室は、県下北地域県民局との協力体制の下、50年ほど前の時代に台湾人の医師が下北の医療を支えた歴史に着目し、台湾からの誘客促進につなげるプロジェクトに取り組んでいる。下北の人々が今でも台湾の医師に感謝していることに着目し「命の絆」をキーワードとしたツアーの創出などを目指す。このほど、学生たちが現地でも聞き取り調査を実施。新年度から本格的に事業をスタートさせる。(近藤弘樹)

◇ 同推進室の西村君平助教によると、昭和40(1965)年代、下北の医師不足を解消するため、台湾から多くの医師が来日



## 50年前 下北の医療支える 台湾医師に今も感謝



台湾の医師と共に働いた経験のある元看護師  
◎から話を聞く学生たち—2月12日、佐井村

し、むつ市、大間町、風間浦村、佐井村、東通村の診療所などで治療に当たった。現在はこのような形は残っていないが、当時の「命の絆」を後世に伝えつつ、下北と台湾の絆を強化する目的

でプロジェクトに着手した。当面は、下北地方で当時、台湾人医師と一緒に働いた看護師や治療を受けた患者などの証言を集め、書面や動画で整理する。新年度からは大学の授業の一つに位置付けて調査研究を進める。さらにPR用のチラシや動画を製作し、台湾の旅行会社などに対し「命の絆」を紹介していく方針だ。

## 弘大がプロジェクト 新年度から本格始動

活動の本格化を前に2月11日、弘前大から西村助教と台湾出身の非常勤講師・呉書雅さん、学生たちが同県民局の職員とともに風間浦村と佐井村を回り、住民や元看護師、樋口秀規佐井村長などから話を聞いた。人文学部3年の藤川健太郎さん(23)は「調査を通じ、台湾の医師が昼夜問わず働いてくれたことや、下北の人たちが今もとても感謝していることを知った。この感謝の気持ちを現代の台湾の人に伝えれば、交流が深まっていくのではないか」と語った。

西村助教は「インバウンド(訪日外国人旅行)誘客では、その土地にしかない特別な体験があることが効果的。函館市を訪れている台湾からの観光客に命の絆を伝えれば、下北へ関心を持ってもらえるのではないかと話す。同県民局の担当者は「志の高い台湾の人が縁のない下北に来て地域の人たちの命を救ってくれたという事実が台湾のメディアが興味を持って取り上げてくれれば、大きく広まる可能性がある」と述べ「下北を訪れる人が増えるきっかけになればいい」と期待している。

東奥日報社提供

東奥日報 12面 (平成29年3月27日付)

# 「よそ者目線」で観光プラン

## 弘大・東洋大生2人 1カ月住み、提案



### 北部海岸 集落巡り モニターツアーも実現

東  
通

東通村の広告デザイン・イベント運営などを手掛ける会社「コスモクリエイティブ」で、大学生2人が2月21日から3月23日までの約1カ月間、職場体験実習をした。村内に住み込みながら、よそ者、若者の目線で地域の活性化につながる観光プランを提案する試み。期間中にはモニターツアーも企画し、村の観光の新たな可能性を探った。

(近藤弘樹)

職場体験をしたのは、弘前大学人文学部2年で北海道出身の田村楓さん(20)と、東洋大学国際地域学部1年で千葉県出身の高津はるかさん(19)。田村さんは「青森COC+推進機構」の共育型インターンシップ制度、高津さんは東京都のNPO法人エティックの地域ベンチャー留学制度により同村に滞在、同社で仕事に当たった。

東通村

光スポットを回ったほか、人々の暮らしにも目を向け、特色ある観光プランを考えた。

旅行会社に提案しながら試行錯誤を経て、貴重な地形などを主な見どころとする下北ジオパークの中の「北部海岸」の見学や寒立馬とのふれあい、集落でのまち歩きなどを組み合わせ、モニターツアーを3月21日に実現させた。

同機構の担当者は、今回の試みにより学生側も企業側も変化が生まれ、成長する機会になったとみる。

観光事業実施に向けた準備を進めている同社の氣仙修社長は「生活の一部である雪かき、まき割りも面白い観光の素材になることに学生たちが気づかせてくれた。今後のツアーづくりに生かしていきたい」と語った。

田村さんは「1カ月滞在したので、村内のいろいろな人と何度も会って話ができ、企画の磨き上げにつながった。地元の人と来訪者がコミュニケーションを深

められるような観光を進めれば、再来者が増えるのではないかと振り返った。高津さんは「地元の人たちと温かく受け入れてもらい、うれしかった。そこに住んでいる人たちが好きになるからこそ、また来たくなる気持ちが芽生えるのだと思う」と話した。

東奥日報社提供



青森県の大学生が作る、青森大好きマガジン [シーン]

# SCENE

vol. 01

地域で育つ・地域が育つ。  
参加学生に聞く、共育型地域インターンシップの魅力

学生による青森県の企業訪問  
六花酒造／サンマモルワイナリー

文部科学省  
地(知)の拠点

弘前大学 人文学部  
八島 愛美  
(共育型地域インターンシップ参加学生)

青森県の大学生が作る、青森大好きマガジン【シーン】

# SCENE

vol. 02

学生による青森県の企業訪問

マエダ／陸奥新報社

東和電機工業／むつ家電特機

弘前大学 農学生命科学部  
青沼 彩葉





青森県の大学生が作る、青森大好きマガジン [シーン]

# SCENE

vol.03

弘前大学 人文学部  
日野 夏美

弘前大学 人文学部  
葛西 美咲

学生による青森県の企業訪問

マルマンコンピュータサービス

東北三吉工業

アツギ東北

木村食品工業

JR東日本青森商業開発

弘前大学  
地(知)の拠点

## ■ 企業向け共育型インターンシップフォーラム チラシ

ALL  
AOMORI  
COC+



文部科学省

## 地(知)の拠点 青森中央学院大学

青森中央学院大学は、「オール青森で取り組む『地域創生人材』育成・定着事業」の参加校です。



学園創立70周年

COC+では青森県の未来を担う人材育成のため、企業や学生にもメリットや魅力がある共育型インターンシップの実施・推進を行っています。

このフォーラムでは、共育型インターンシッププログラムの全体設計や事前準備から修了までの流れを、事例を紹介しながら企業の皆様と考え、実施するきっかけになることを目的としています。

平成28年

# 11月4日(金)

13:30~17:00  
受付12:30~

## 企業向け共育型インターンシップ フォーラム 参加無料

**場所** ホテル青森 4階 錦鶏の間 (青森市堤町1-1-23)  
TEL: 017-775-4141

内 容

- COC+事業概要説明  
弘前大学 副理事(企画担当) 曾我 亨氏
- 事例紹介
- ワークショップ
  - 共育型インターンシップの流れおよび全体のプログラム設計について
  - 「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」の活用  
NPO法人プラットフォームあおもり理事長 米田 大吉氏

【主催】青森COC+推進機構(青森ブロック) 事務局  
青森中央学院大学COC+事業推進事務局  
【共催】青森商工会議所  
青森県中小企業家同友会

(申し込み・問い合わせ) 青森中央学院大学COC+事業推進事務局  
Tel: 017-728-8161(直通) FAX: 017-738-8333  
e-mail: acgu-coc@aomoricgu.ac.jp



■ 共育型企業インターンシップ学生募集説明会 チラシ



# 説明会参加学生募集!

2016

12.7 水

14:30 - 16:30

弘前大学 総合教育棟405講義室

**対象** 青森県内の大学・短大・高専の学生  
※学部・学年は問いません

**主催** 青森COC+推進機構

説明会に参加を希望する方は、12月5日(月)までに、以下のメールアドレスまで申してください。

【参加申込・問合せ先】弘前大学COC推進室 工藤・小寺 [jm3799@hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3799@hirosaki-u.ac.jp)

## 共育型企業インターンシップとは?

青森県には、魅力的で面白い取り組みを行っている企業があります。その企業が抱えている課題や挑戦したい事業に、学生ならではの発想力で挑戦する。それが「共育型企業インターンシップ」です。

ぜひ、春休みは共育型企業インターンシップに参加してみませんか?

## ■共育型企業インターンシップ 実施概要

**実施期間** 平成29年2月中旬～3月中旬 (約4週間)

**対象学生** 青森県内の大学・短大・高専の学生  
※学部・学年は問いません

**インターン先** 青森県内の企業 2社

## ■ 「くらす?はたらく」シリーズ Session 1 ～女社会?男社会～ チラシ





# くらす ? はたらく

**【対象】**  
県内の大学生  
(短大・専修含む)  
なら男女問わず  
だれでもOK!

**【Session1】**

## 女社会 ? 男社会

 にあなたなら何を入れますか。  
 =、>、<、「ように」、「または」…  
 生き生きと「くらす  はたらく」  
 のブラックボックス  を考え、  
 キャリアについて考えていくセッションです。

**■日 時** / 平成28年11月19日(土) 13:00～15:30  
**■会 場** / 青森県立保健大学 A棟1F 音楽室  
※弘前方面の方は送迎バスあり。  
**■定 員** / 20名【事前申込制】 **■参加費** / 無料  
**■スケジュール** / 【第1部】ゲストトークセッション  
 【第2部】ゲスト&学生ワークショップ

**〈コーディネーター〉**  
 NWECC (National Women's Education Center, JAPAN)  
 独立行政法人 国立女性教育会館事業課専門職員  
**佐伯 加寿美さん**

**【女社会ではたらく男子】**

ゲスト



東北医科薬科大学病院  
循環器科・心臓血管外科・  
腎臓泌尿内科病棟  
看護師  
**小泉 瑠清さん**  
青森県立保健大学看護学科卒  
入職1年目

**【女社会ではたらく女子】**



認定こども園  
青森中央短期大学附属  
第一幼稚園  
主幹教諭  
**棟方 恵子さん**  
青森中央短期大学幼児教育学科卒  
入社12年目

**【男社会ではたらく女子】**



株式会社 田名部組  
住宅事業部設計施工課  
現場監督  
**沢目 枝里子さん**  
青森県立十和田工業高等学校卒  
入社7年目

**主催** : 青森COC+推進機構 女子学生のキャリア支援WG  
(青森県立保健大学、東北女子大学、弘前医療福祉大学、弘前学院大学、青森中央短期大学)  
**問い合わせ先** :  青森県立保健大学 青森市浜館字間瀬58-1 TEL: 017-765-2144

次回予告 : Session2 お金  時間

■ 新卒看護職の採用力向上セミナー【入門編】 チラシ



文部科学省  
**地(知)の拠点**  
平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

# 新卒看護職の 採用力向上 セミナー【入門編】

～あなたの病院の魅力、うまくアピールできていますか？～

第1部は、今の新卒採用の現状や最新のトレンドと、事例紹介についてお話ししながら、採用に当たった課題や戦略について、具体的に・わかりやすく解説をいたします。  
第2部は、それぞれの病院の採用に対する課題・魅力を発見するためのワークショップをします。尚、現在企画中の【実践編】と併せてご参加いただくことをおすすめします。



【第1部】10:00～12:00

### パネルディスカッション 「新卒採用の現状・事例紹介」

①新卒採用の現状 ②課題 ③戦略

パネリスト：名寄市立総合病院 看護部長 益塚典子 様  
名寄市立総合病院 教育担当次長 森田静江 様  
(株)エス・エム・エスキャリア  
ナース専科就職ナビグループ責任者 大隅隆広 様  
コーディネーター：(株)オフィス55 代表取締役 高木 茂

【第2部】13:00～15:00

### ワークショップ

①あなたの病院の課題 ②あなたの病院の魅力を発見  
③発表

コーディネーター：オフィス円香 大坂 彰子

- 日 時 / 平成28年 **12月3日(土)**  
10:00～15:00 (受付9:30～)
- 会 場 / ホテル青森 3F 善知鳥の間 (青森市堤町1丁目1-23)
- 定 員 / 10施設 (定員を超えた場合は先着)
- 対 象 / 青森県内の新卒看護職採用を予定している病院
- 参加条件 / 1施設3～5名のグループ  
(看護部門管理者と人事・採用担当事務員が含まれること)
- 参加費 / 無料
- 申込方法 / 裏面に必要事項をご記入の上、FAXにてお送りください

応募締切 / 平成28年11月15日(火)

コーディネーター



(株)オフィス55 代表取締役 **高木 茂**

1950年秋田市生まれ。1972年中央大学卒業 同年(株)リクルート入社。1986年(株)リクルートメディアコミュニケーションズ取締役人事部長兼経営企画室長就任を経て、2005年(株)オフィス55を仙台市に設立。その後ジョブカフェいわてセンター長等歴任。東北地方を中心とした人的資源管理に関わる採用、教育、制度設計、組織風土設計などの企業向け支援や行政機関と共に若年者の就業支援などのサポートを手掛ける。

オフィス円香 代表 **大坂 彰子**



専門学校卒業後、松下電工株式会社 電材事業本部 人事部、人材派遣会社2社、自治体病院にて社員研修講師を経験後、キャリアコンサルタントとして独立。青森県と大坂府を拠点に、自治体病院、看護協会の新人社員研修や高校生・大学生の就職ガイダンス講師として活動しながら、大手進路情報会社、公的機関の就職講座にも携わる。

主催：青森COC+推進機構 女子学生のキャリア支援WG (青森県立保健大学、東北女子大学、弘前医療福祉大学、弘前学院大学、青森中央短期大学)  
問い合わせ先：青森県立保健大学 青森市浜館字間瀬58-1 TEL:017-765-2144 メールアドレス：joshicarri@auhw.ac.jp

## ■ あおもり県企業内容説明会 チラシ



文部科学省  
**地(知)の拠点**

あおもりの企業の魅力を再発見!

# あおもり県

## 企業内容説明会

このような  
学生に  
最適です。

**青森県限定の企業説明会です。**

- 地元で働きたい
- 地元でどのような企業があるか知りたい
- 希望している業界・職種の様子を知りたい

※本説明会は採用選考活動ではなく、キャリア教育として実施するものです。

**pick up /**

特別企画

- 1 我が社の魅力・学生が働きたい! と思える魅力あふれるプレゼン
- 2 県内女性社長による講演会

平成  
28年

# 10月22日 土

13:00▶16:30 [受付12:30]

会場: グランドサンピア八戸 八戸市東白山台1丁目1-1  
TEL: 0178-23-5151

**参加費無料**

**当日参加OK**

**入退場自由**



<b>対象</b>	大学生、短大生、高専生、専門学校生等の学生 (学年は問わない)、及び教職員
<b>参加企業</b>	青森県に事業所を置く企業 (来年度新規採用を条件としない)

最新情報はHPにて随時更新中!! 左記QRコードよりアクセスできます▶  
<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/coc/project/2016/08/000547.php>



主催	青森 COC+ 推進機構 (八戸ブロック) (弘前大学COC+参加校) 八戸工業大学・八戸学院大学・八戸工業高等専門学校
共催	青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)
協力	八戸高専 産業技術振興会
お問い合わせ	八戸工業高等専門学校 [総務課 地域連携係] 〒039-1192 八戸市大字田面木字上野平16-1 TEL: 0178-27-7239 E-mail: renkei-o@hachinohe-ct.ac.jp



■ イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016 チラシ

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

# イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト

Innovation Venture Idea Contest 2016

## 2016

地域を元気にする学生の提案

学生による地域の活性化を目標とし、新しい産業分野や製品の創出、この地域にあったシステムの提案など、学生のアイデアを地域に提示し、企業等と連携して実現化することで、この地域がより良くなることを目的とし、開催いたします。

**2016** **12月11日(日)**  
**13:00▶17:00** [受付12:30]  
**会場: 八戸パークホテル** **参加無料**  
八戸市吹上1丁目15-90  
主催/青森COC+推進機構(八戸ブロック)  
八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校  
青森県、八戸市

ACCESS MAP

●ゆりの木ボウル  
●吹上郵便局  
●吹上小学校  
●長者山新羅神社  
●村井内科クリニック  
●八戸パークホテル  
●青森銀行吹上支店  
●第一中学校

文部科学省 **地(知)の拠点**  
弘前大学COC+参加校  
八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校

お問い合わせ **八戸工業高等専門学校** [総務課 地域連携係]  
〒039-1192 八戸市大字田面木字上野平16-1 TEL 0178-27-7239  
E-mail renkei-o@hachinohe-ct.ac.jp URL <http://www.hachinohe-ct.ac.jp/coc/project/2016/11/000591.php>

最新情報はHPをご確認ください!

## ■ 女性のキャリア支援セミナー チラシ



平成27年度採択 文部科学省 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」  
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

女性のキャリア支援セミナー

# 女性が輝く、みんなが輝く

～性別にとらわれない これからの生き方・働き方を考える～

平成29年

## 2月24日(金)

13:30～15:30

下北文化会館 2F 集会室1  
(むつ市金谷一丁目10-1)

**入場無料・要事前申込**

近年、地方創生や人口減少社会への対策として、女性の働き方改革が語られています。女性の働き方を考える時に、決して忘れてはいけない事実があります。それは、女性は女性だけの閉じた世界で働いているのではなく、社会の中で様々な人たちと関わりながら働いているということです。

女性の働き方改革のためには、女性が変わる以上に、社会が変わる必要があります。このような観点から、本講演会では、性別の違いに関係なく、一人ひとりが安心して活躍できる社会のあり方について考えます。

### 講師



弘前大学  
男女共同参画推進室 助教

**山下 梓** (やました あずさ)

岩手県出身。研究テーマは国際人権法、性的指向・性別自認・身体多様性と人権。セクシュアルマイノリティの人権に関する国際NGO「ILGA」前共同代表。平成28年度から、弘前大学が岩手大学などとともに選定された文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の実務を担っている。



参加を希望する方は、電話・FAX・メールにてお申込ください

ALL  
AOMORI  
COC+

主催  
青森 COC+推進機構(むつブロック)  
弘前大学 青森中央学院大学 むつ市

問合せ・申込み先

青森COC+推進機構 むつブロック・コーディネーター 坂本 謙二  
むつ市役所 総合戦略課内  
TEL 0175-22-1111 (内線2816) FAX 0175-23-4108  
Mail senryaku@city.mutsu.lg.jp Web <http://coc.hirosaki-u.ac.jp>

■ 合同企業等見学会inむつ チラシ

文部科学省  
地(知)の拠点

# 合同企業等見学会 in むつ

むつ下北地域の企業等を訪ねて～新しい魅力の再発見～



日程：10月6日（木）～7日（金）

スケジュール

1日目

- 8：00～ 弘前大学出発
- 11：30～ オリエンテーション
- 13：00～ アツギ東北 株式会社
- 14：50～ 海洋研究開発機構
- 16：10～ 青森監査法人

2日目

- 8：45～ 株式会社 マエダ
- 10：20～ 株式会社 むつ家電特機(展示会)
- 13：10～ 株式会社 大湊精電社
- ～18：00 弘前大学到着(予定)

定員：10人  
交通費・宿泊費：無料  
※食事代のみ負担していただきます  
対象：全学部・全学年  
※大学生協総合共済加入者が対象です

【申込先】弘前大学総合教育棟1階 COC推進室  
※申込締切：10月3日(月)15:00  
【問い合わせ】弘前大学COC推進室 竹浪  
TEL:0172-39-3308  
FAX:0172-39-3309  
E-mail:jm2136@hirosaki-u.ac.jp



## ■ シンポジウム「地域エネルギーの未来を考える」 チラシ

2016年  
**10月28日(金)**

文部科学省  
地(知)の拠点

**開催場所**  
アートホテル弘前シティ(3階サファイア)  
(旧ホテルナクアシティ弘前)

プログラム

**開会挨拶**  
14:00~14:10  
弘前大学長 佐藤 敬  
青森県知事 三村 申吾

14:10~14:30  
**オール青森で取り組む  
「地域創生人材」育成・定着事業(COC+)について**  
理事(企画担当)・副学長 吉澤 篤

**基調講演**  
14:30~15:30  
**「自然エネルギーの現状と弘前大学への期待」**  
(一社)日本エネルギー学会会長  
(公財)地球環境産業技術研究機構(RITE)  
理事・研究所長 山地 憲治   
(10分休憩)

**講演Ⅰ**  
15:40~16:10  
**「青森県の新たなエネルギー産業振興戦略について」**  
青森県エネルギー総合対策局  
エネルギー開発振興課グループマネージャー 澤頭 潤

**講演Ⅱ**  
16:10~16:30  
**「弘前型スマートシティ構想」**  
弘前市都市環境部理事兼スマートシティ推進室長 鈴木 政孝

**講演Ⅲ**  
16:30~16:50  
**「平川市地域新エネルギービジョン」**  
平川市経済部農林課 課長補佐 加藤 芳和

**講演Ⅳ**  
16:50~17:20  
**「自然エネルギー学科の取り組みと地域貢献」**  
弘前大学理工学部自然エネルギー学科長(教授) 阿布 里提

**情報交換会 17:30~19:30**

■会場 / アートホテル弘前シティ(3階エメラルド)  
(旧ホテルナクアシティ弘前)

■会費制 / 5,000円 事前にお申し込みが必要です

■主催 / 弘前大学理工学研究科 ■共催 / 青森COC+推進機構 ■後援 / 平川市

**問い合わせ先**  
弘前大学理工学研究科総務グループ(総務担当)  
〒036-8561 弘前市文京町3番地 TEL:0172-39-3503 / FAX:0172-39-3513 E-mail: jrn3505@hirosaki-u.ac.jp

**参加無料**

**地域エネルギーの未来を考える**

弘前大学理工学部自然エネルギー学科開設記念シンポジウム





■ サイクルツーリズムフォーラム チラシ

ALL  
AOMORI  
COC+


 文部科学省  
**地(知)の拠点**



# 自転車

## を軸とした観光振興

### 自転車で琵琶湖を一周する観光～「ピワイチ」

参加  
無料

従来の旅行とは異なり、旅行先での人や自然との触れ合いを中心とした、新しいタイプの旅行スタイルとして、ニューツーリズムが注目を浴びています。

特に自転車によるサイクルツーリズムについては、しまなみ海道をはじめ、インバウンドも含めて様々な成功事例が出ており新たな雇用が創出されてきています。今回、滋賀県と守山市が中核となって進めている自転車で琵琶湖を一周する観光～「ピワイチ」サイクリングについて、琵琶湖周辺の市町と連携しながら、地方創生の取り組みとして環境整備を進めている同地区の取り組みや課題、そして目指している将来像についてお話しいただき、青森県でのサイクルツーリズムの推進、雇用創出について考えます。

**日時** 平成28年**11月2日** 18:00～20:00 (受付17:30～)

**場所** ホテルサンルート五所川原 2階 萬葉の間  
〒037-0053 青森県五所川原市布屋町25 電話 0173-34-8811  
(駐車場は宿泊のお客様専用につき、公共駐車場または公共交通機関をご利用ください。)

**講演** 「**自転車を軸とした観光振興**  
自転車で琵琶湖を一周する観光～「ピワイチ」」  
講師 滋賀県 守山市役所 政策調整部次長 兼 地方創生推進室長 **山形 英幸** 氏

**パネルディスカッション** 「**サイクリングと持続可能な地域の振興**」

<p><b>パネリスト</b></p> <p>守山市 政策調整部次長 兼 地方創生推進室長 <b>山形 英幸</b> 氏 株式会社ウイリステージ 代表取締役 <b>大谷 洋士</b> 氏 株式会社ウイリステージ 営業統括部長 <b>京極 卓也</b> 氏 三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング株式会社 主任研究員(地域づくりスペシャリスト) <b>藤原 誠二</b> 氏 五所川原市サイクリング協会 会長 <b>福士 寛美</b> 氏</p>	<p><b>コーディネーター</b></p> <p>青森中央学院大学 地域マネジメント研究所 所長・教授 <b>岩船 彰</b></p>
---	--

**講師プロフィール**  
滋賀県生まれ 慶應義塾大学経済学部卒  
住友信託銀行株式会社(現 三井住友信託銀行株式会社)本支店を経て、滋賀県庁入庁。平成27年度より、守山市役所(出向・現職)において守山市版地方創生総合戦略を策定。その柱の一つとして「自転車を軸とした観光振興」を推進。

**定員** **80名**  
(定員になり次第メット)

**対象** 一般、行政関係者  
観光関係者、学生

[主催] 五所川原市サイクリング協会、津軽海峽フェリー株式会社、青森COC+推進機構 雇用創出プロジェクト「ツーリズム」(青森中央学院大学、弘前大学)  
[協力] また旅くらぶ、材 株式会社 [後援] 五所川原市、五所川原市教育委員会

あおもり県民カレッジ対象講座 

お申し込み・お問い合わせ

**青森中央学院大学 地域マネジメント研究所** Tel: 017-728-0131 (代表) Fax: 017-738-8333  
〒030-0132 青森市大字橋内字神田12番地 E-mail: csk@aomoricgu.ac.jp

## ■ サイクルツーリズムセミナー チラシ





文部科学省  
地(知)の拠点





## 参加無料

# サイクルツーリズムセミナー 青森のサイクリングガイド養成に向けて ～サイクリングガイドの現状と観光振興～

サイクル・ツーリズム（自転車を活用した周遊、滞在型観光）の振興による地域活性化のため、サイクル・ツーリズムを支えるサイクリングガイド養成に向けたセミナーを開催いたします。  
公益財団法人日本サイクリング協会（JCA）認定登録サイクリングガイドのお二人に、全国各地のサイクリングガイドの活動と、青森県の現状についてお話していただきます。また、青森県でのガイド養成についてのこれからの取り組みについても詳しくお話していただきます。

**日時** 平成29年**3月18日** 14:00～16:00 (受付13:30～)

**場所** 新町キューブ (青森ケーブルテレビ) 3階 会議室  
〒030-0801 青森県青森市新町2丁目6-25 電話 017-773-4422  
(駐車場は会場最寄りの有料駐車場、または公共交通機関をご利用ください。)

**講師** 日本サイクリング協会認定  
サイクリングガイド  
**江利山 元気** 氏



青森県青森市生まれ  
raticul 代表  
日本サイクリング協会 (JCA) 公認 サイクリングガイド  
青森県サイクル・ツーリズム推進協議会副座長  
メディックファーストエイドベーシックプラス修了  
青森県内において、台湾等からの観光客向けコース設定  
や案内、ライドや講習会等を開催している。

日本サイクリング協会認定  
サイクリングガイド  
**花田 カズオ** 氏



青森県弘前市生まれ  
ムーンロック・マウンテンガイド・オフィス 代表  
日本サイクリング協会 (JCA) 公認 サイクリングガイド  
日本山岳ガイド協会 (JMGA) 登山ガイドSII、スキーガイドS1  
JMGA危急時対応講習2016修了、一般救急救命修了  
青森県内他、北東北地方の山岳地帯やスキーエリア、バイクロード全般を通じて活動している。

**定員** 30名  
(定員になり次第メ切)

**対象** サイクリングの初級者から中級者程度 (個人走行・集団走行問わず)、  
サイクリングガイドに興味のある方 (サイクリング経験不問)、  
他種ガイド経験者、行政関係者、観光・宿泊事業者

【主催】青森COC+推進機構 雇用創出連携プロジェクト「ツーリズム」(青森中央学院大学、弘前大学、八戸工業高等専門学校)  
【共催】青森県サイクル・ツーリズム推進協議会、青森商工会議所 【後援】青森県サイクリング協会

あおもり県民カレッジ対象講座 

お申し込み・お問い合わせ



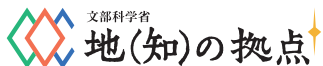
**青森中央学院大学 地域マネジメント研究所**  
〒030-0132 青森市大字横内字神田12番地

**Tel: 017-728-0131 (代表) Fax: 017-738-8333**  
**E-mail: csk@aomoricgu.ac.jp**

113



■ 平成28年度COC+シンポジウム チラシ



平成27年度採択 文部科学省 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」  
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

## 平成28年度 COC+シンポジウム

学生が企業を変える！

# 企業力強化に 向けた採用戦略

# ALL AOMORI COC+

2017

# 3.9 木

13:00 - 16:00

アートホテル弘前シティ  
3階 プレミアホール

入場無料・要事前申込

【対象】青森県内の企業関係者  
大学関係者 / 自治体関係者 等

【問合せ・申込先】

青森COC+推進機構 事務局 国立大学法人弘前大学  
TEL 0172-39-3305 / 3306 FAX 0172-39-3309  
Mail coc@hirosaki-u.ac.jp Web http://coc.hirosaki-u.ac.jp

オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

青森県内の大学・高専・自治体・企業等が連携して「オール青森」ネットワークを形成。「創造力」「志・意欲」「実行力・仲間力」を持った人財を育成し、青森県の最大課題である「人口減少克服」を目指します。

### プログラム

第一部 13:00~

#### 開会挨拶

青森COC+推進機構長 佐藤 敬  
弘前大学長

#### COC+の取り組み

弘前大学 理事(企画担当)・副学長 吉澤 篤

#### 講演 「社長の夢をかなえた学生生活用術」

NPO法人ETIC,  
ローカルイノベーション事業部マネージャー 伊藤 淳司

#### 講演 「採用難時代を勝ち抜く企業」

株式会社オフィス55 代表取締役 高木 茂

第二部 14:25~

#### 分科会 「企業力・採用力の向上を目指して」

第1会場 インターンシップによる企業力アップ

第2会場 情報発信強化による採用力アップ

#### 分科会全体報告

開会挨拶 青森COC+推進機構 副機構長 花田 勝美  
青森中央学院大学長

#### ポスター展示

COC+事業の成果を紹介するポスターを  
展示します。ぜひご覧ください。

主催 青森COC+推進機構

弘前大学(機構長) 青森県立保健大学 東北女子大学 八戸工業大学 弘前学院大学 八戸学院大学  
青森中央学院大学 弘前医療福祉大学 青森中央短期大学 八戸工業高等専門学校  
青森県 青森市 弘前市 八戸市 むつ市

# 学生が企業を変える！ 企業力強化に向けた採用戦略

## ■ 講師紹介



### 講演

#### 「社長の夢をかなえた学生活用術」

NPO法人ETIC.  
ローカルイノベーション事業部マネージャー

**伊藤 淳司** (いとう じゅんじ)

愛知県名古屋市生まれ、早稲田大学教育学部卒。1997年からETIC.に参画し、コーディネーターとして実践型インターンシップを活用した人材育成、少数精鋭組織のコンサルティングに関わる。2004年から「若者×経営者×地域=挑戦が生まれる日本」を目指すチャレプロジェクトに参画。その他、行政・地方自治体とのリーダー育成協働プロジェクト、大学との実践型カリキュラム開発も担当。早稲田大学MBA取得。



### 講演

#### 「採用難時代を勝ち抜く企業」

株式会社オフィス55  
代表取締役

**高木 茂** (たかぎ しげる)

1950年秋田市生まれ。1972年中央大学卒業。同年(株)リクルート入社。1986年(株)リクルートメディアコミュニケーションズ取締役人事部長兼経営企画室長就任を経て、2005年(株)オフィス55を仙台市に設立。その後ジョブカフェいわてセンター長等歴任。東北地方を中心に人的資源管理に関わる採用、教育、制度設計、組織風土設計などの企業向け支援や行政機関と共に若年者の就業支援などのサポートを手掛ける。

## ■ 会場アクセス

### アートホテル弘前シティ 3階プレミアホール

(旧: ホテル ナクアシティ弘前) 青森県弘前市大町1丁目1-2



## ■ 分科会テーマ

### 第1会場

#### インターンシップによる企業力アップ

##### ■青森県の企業2社による話題提供

株式会社木村食品工業 弘前航空電子株式会社

##### ■会場の企業からの意見出し～まとめ

【司会】 青森中央学院大学 キャリア支援センター長 塩谷 未知

【コメンテーター】 NPO法人ETIC.  
ローカルイノベーション事業部マネージャー 伊藤 淳司

### 第2会場

#### 情報発信強化による採用力アップ

##### ■青森県の企業2社による話題提供

マルマンコンピュータサービス株式会社 株式会社ユニバース

##### ■会場の企業からの意見出し～まとめ

【司会】 弘前大学 教育推進機構 キャリアセンター  
副センター長 小磯 重隆

【コメンテーター】 株式会社オフィス55 代表取締役 高木 茂

## ■ 参加申込

シンポジウムに参加を希望する方は、下記に必要事項を記入の上、FAXまたはE-mailにてお申込ください。

申込期限 平成29年3月1日(水)まで

所属	氏名	連絡先電話番号 / メールアドレス	分科会選択
			<input type="checkbox"/> インターンシップ (第1会場)
			<input type="checkbox"/> 情報発信強化 (第2会場)
			<input type="checkbox"/> インターンシップ (第1会場)
			<input type="checkbox"/> 情報発信強化 (第2会場)
			<input type="checkbox"/> インターンシップ (第1会場)
			<input type="checkbox"/> 情報発信強化 (第2会場)

分科会選択につきましては、申込状況により、ご希望に添えない場合もございますこと、あらかじめご了承願います。

**FAX 0172-39-3309**

**E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp**



■ 女子学生のキャリア支援プログラム リーフレット



■ 「浅虫温泉海山クア(健康)の道」 ガイドマップ コース編



平成27年度採択 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

**オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業**

**平成28年度 事業成果報告書**

発行日 平成29年4月

編集・発行 青森COC+推進機構 事務局

国立大学法人弘前大学 COC推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL 0172-39-3305/3306 FAX 0172-39-3309

E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp

Web <http://coc.hirosaki-u.ac.jp>



地(知)の拠点





青森COC+推進機構